

公益社団法人

全国柔道整復学校協会

会報

令和7年1月

第73号

- ◆ 会長新年のご挨拶
- ◆ 令和6年度 柔道整復師専科教員認定講習会 東日本会場開催報告
- ◆ 令和6年度 柔道整復師専科教員認定講習会 西日本会場開催報告
- ◆ 第66回 教員研修会開催報告
- ◆ わが街の見どころ聞きどころ（専門学校沖縄統合医療学院）
- ◆ 教員紹介リレー（四国医療専門学校 四宮 英雄 先生）

柔道整復学校養成施設倫理綱領

主 旨

公益社団法人全国柔道整復学校協会は、質の高い柔道整復師育成を以って国民の保健衛生の向上に寄与するため、柔道整復師養成施設（以下「学校」という）の倫理綱領を定める。

1. 学校の使命

学校は、国民の保健衛生の向上に寄与する柔道整復師を養成することを使命とし、建学の精神と理念を実践し、教育水準の維持及び質の向上に努める義務と社会的責務を全うするものとする。

2. 教育水準の維持及び質の向上

学校は、常に教員の資質の向上と教育内容の充実を図るとともに、多種多様な分野に対応し得る質の高い専門的教育を推進し、社会に求められる柔道整復師の育成に努める。

3. 自主性と他校連携

学校は、建学の精神と理念に基づき自主性をもった学校運営を行う中で、教育水準の維持及び質の向上を念頭に、他校とも連携し、社会に貢献できる柔道整復師を育成することに努める。

4. 法令等の遵守

学校は、養成施設指定規則及び指導ガイドライン並びにその他の法令を遵守すると同時に、公序良俗に違反する行為を排し、柔道整復師養成施設としての社会的責務を果たす中で、国民からの信頼と期待を得ることに努める。

5. 学校評価の推進

学校は、質の高い教育とよりよい教育環境の整備と充実を図るため、自己点検・自己評価の実施はもとより、第三者評価にも積極的に取り組み、同時にこれに基づいた情報公開を行うことで、透明性の高い学校運営に努める。

平成 29 年 12 月

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

会報



令和7年 ● 第73号

目次

	頁
会長新年のご挨拶	2
令和6年度 柔道整復師専科教員認定講習会 東日本会場開催報告	3
令和6年度 柔道整復師専科教員認定講習会 西日本会場開催報告	4
第66回 教員研修会開催報告	5
【理事会議事録】	
・令和6年度 第7回、第8回、第9回	13
【委員会の状況】	
・教育支援委員会教科書部会	
令和6年度 第3回部会議事録	28
・教育支援委員会教員研修等部会	
令和6年度 第4回部会議事録	31
・教育支援委員会専科教員認定講習部会	
令和6年度 第6回部会、第7回部会議事録	37
・広報・調査委員会	
令和6年度 第3回委員会議事録	41
【わが街の見どころ聞きどころ】	
・専門学校沖縄統合医療学院	46
【教員紹介リレー】	
・大麻学園四国医療専門学校 四宮 英雄 先生	48
【各名簿】	
・正会員一覧、学校理事長・校長・正会員名簿、賛助会員名簿、委員（部）会員名簿	52
・編集後記	61
・学校協会案内図	



新年のご挨拶

公益社団法人全国柔道整復学校協会

会長 谷口和彦

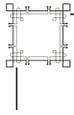
新年おめでとうございます。会員校の皆様には旧年中、当会事業に格別なるご高配を賜り心よりお礼申し上げます。

昨年は元日に能登半島地震が発生、また続く9月には同地域が豪雨災害に見舞われるなど、時や事情を選ばない自然災害の脅威を感じるとともに、柔道整復師における災害時の役割についても新たためて考えるところとなりました。今年は明るい話題に始まり終わる一年であることを心から願っております。

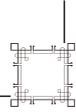
さて、当会では今年も引き続きカリキュラム改訂の実現と柔道整復学のコアカリキュラムの構築を中心に取り組んで参ります。前者においては厚労省と事前面談を重ねておりますが、改訂案に対する意見や指摘事項を受け、カリキュラム検討小部会を中心にブラッシュアップを図っており、本格的な議論の俎上に上がるまでにはまだ少し時間を要する見込みです。後者に関しては改訂後のカリキュラムをベースに考えているため、整理すべきところは進めつつ、優先すべきはカリキュラム改訂の実現と考えています。

今年の干支である乙巳（きのとみ）の年は「これまでの努力や準備が実り、多くの人にとって成長と結実の時期になる可能性が高い」とありました。一方で「結果が出ずとも粘り強く取り組む辛抱強さが試される」そうです。当会にとりましていずれの結果となるかわかりませんが、引き続き努力して参る所存ですので、何卒ご協力いただきますよう宜しくお願い致します。

最後になりましたが本年が皆様方にとって佳き年となりますことを祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。



令和6年度 柔道整復師専科教員認定講習会 東日本会場開催報告



主幹校：学校法人花田学園 日本柔道整復専門学校

令和6年度の柔道整復師専科教員認定講習会東京会場は、主幹校を日本柔道整復専門学校が務め、協力校として東京メディカルスポーツ専門学校、東京医療福祉専門学校にご支援をいただき開催されました。

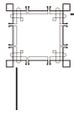
令和6年6月1日の開講式から始まり、毎週土曜日、日曜日に加え、祝日にも開催されました。今年度は23名の受講生が講習会を受講し、関東圏のみならず東北、東海エリアから通われる受講生もいました。開講式が行われた日本柔道整復専門学校が位置する渋谷は、100年に1度と言われる再開発が行われており、駅の周囲は目まぐるしい変化を遂げています。その為、開講式の日にはやや道に迷われた受講生の方もいたようですが、無事に全員そろって開講式を迎えることが出来ました。開講式を終えるとオリエンテーション、その後は教育実習の講義が行われました。

受講生は日々の仕事に加えての講習会のため時間的に余裕がないにもかかわらず、記録的猛暑のなか大粒の汗をかきながら受講会場に駆け込み、熱心に受講されていました。また、講義の後には講師の先生に質問する為に、多くの受講生が教卓の周りに集まる姿がみられ、今年度の受講生の講習会への取り組みを象徴していました。模擬教育実習では、受講生全員が15分程度の模擬授業を行いました。主旨は学生に向けての授業ですが、実際に目の前にいるのは受講生の先生であるため難しいと考えられます。その状況の中でも皆堂々と個性あふれる模擬授業を行っており私も参考になりました。

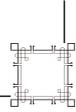
主幹校、協力校と受講会場を変えながら9月8日まで講習会は行われました。その後9月23日に修了試験が行われ、判定の結果、全ての受講生が修了することが出来ました。10月12日に行われた閉講式では谷口会長、関口副会長、奥田理事、そして本校の校長である櫻井先生よりお言葉を頂戴しました。修了証書は実務経験5年を満たしている17名の先生に授与され、6名の受講生には実務経験の条件を満たした時点で改めて修了証書が授与されることになります。

閉講式後に行われた謝恩会では講習会や閉講式では見られない、柔らかな表情で懇親を深めている姿がみられ、1次会のみならず2次会まで行われていました。

運営上の不手際があったかと存じますが、無事に修了の日を迎えることが出来ましたのも、受講生の先生方にご理解を頂戴し、学校協会の皆様、主幹校、協力校の先生方、講義をご担当いただいた講師の先生方のご協力の賜物と存じております。ここに心より御礼申し上げ報告とさせていただきます。



令和6年度 柔道整復師専科教員認定講習会 西日本会場開催報告



令和6年度柔道整復師専科教員認定講習会西日本会場は、明治東洋医学院専門学校、および関西医療学園専門学校を協力校として、6月15日（土）から10月26日（土）まで、主幹校である平成医療学園専門学校を主会場として4ヶ月間にわたって実施され、熱心なご指導を行っていただいた先生方を始めとする関係諸氏のおかげをもちまして、滞りなく終了することができました。

今講習会を受講するにあたり、5月12日（日）に受講試験が実施されました。その受講試験を合格された25名が専科教員認定講習会を受講され、10月13日（日）に実施された修了試験も、無事に全員が合格されました。

本年度より実務経験4年をもって講習会を受講できるように緩和されたことから、25名中8名が4年の実務経験をもって受講されました。講習会開催期間中は、実務経験の年数に関係なく受講生同士の繋がりもでき、閉講式においても全員が出席し、認定講習会の同期として最後までやり切ることができた様です。今回の講習会を経たことで残り1年の実務経験も前向きに取り組まれることと思います。

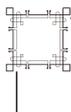
開催期間中は台風10号の影響により、急な日程変更がありました。当該日は必修科目の予定となっておりましたが、担当講師に柔軟な対応をいただいたことにより、最終日程を変更することなく終えることができました。受講生においては、様々な状況下にも関わらず受講し、約4ヶ月間にわたり学ぶ意識を保ち続けた結果、9名が皆勤賞に輝く結果となりました。

養成校として、今後教員を目指す新たな若い力を発揮しやすい環境や業界を作ってまいりたいと考えております。認定講習会に関われたことは、教員を志した頃を思い出すとともに、良い刺激を受けることができました。この経験を日々の学生指導に繋げていく所存です。受講生におかれましても、教員を目指した今の熱い思いを今後の活動に活かし、発展させていただくことを願っております。

最後になりましたが、講師の先生方および協力校の運営委員としてご尽力いただきました関係者の皆様方のご協力のおかげをもちまして、令和6年度の専科教員認定講習会を無事に終了できましたことを、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

週末の貴重な時間に受講された皆様の健闘を称えつつ、今後の専科教員としてのご活躍に大きな期待を寄せまして、報告とさせていただきます。





第66回 教員研修会開催報告



教育支援委員会教員研修等部会 部会長 葉山 直史

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 第66回教員研修会が令和6年9月21日（土）、22日（日）の両日、東京都江東区の東京保健医療専門職大学にて開催されました。

主幹校は学校法人小倉学園 新宿医療専門学校にご担当いただきました。

開会の式典では来賓として、公益財団法人 柔道整復研修試験財団 今別府 敏雄代表理事、公益社団法人 日本柔道整復師会 長尾 淳彦会長、一般社団法人 日本柔道整復接骨医学会 安田 秀喜会長、一般社団法人 柔道整復教育評価機構 関口 正雄理事長、公益社団法人 東京都柔道整復師会 瀧澤 一裕会長にご臨席を賜りました。

今年度の研修会は、学校の校舎をお借りしての開催という特色を生かしたプログラム構成を準備いただきました。分科会は第1、第2テーマが講演形式、第3、第4テーマは実技教室を使用して実技主体の内容で開催されました。講演においても主会場で行う講演Aとサブ会場で開催する講演Bを同時開催し、講演Bでは1日目の講演を基に2日目はワークショップを実施するという形式が採用されました。

開会式終了後、参加者はA、Bの会場に分かれ、13時45分より講演が行われました。

講演A-1-1は『「読む」とはどういうことか?』の演題で、スタディサブリ講師の柳生 好之先生にご講演いただきました。座長は新宿医療専門学校の永野 修先生にご担当いただきました。講演内では近年日本人の読解力が危機的な状況にあることが指摘され、柔道整復を学ぶ学生にもその影響はでており、その中でどのように対策をしたら読解力を鍛えることが出来るのかを実践を交えてご教授いただきました。

講演B-1-1は『プロフェッショナリズムを育成する教育の実践』～専門家として生涯にわたり学び続けることの大切さ～の演題で昭和大学歯学部歯学教育学講座 歯科理工学講座准教授の片岡 有先生にご講演いただきました。座長は新宿医療専門学校の関口 将一先生にご担当いただきました。2日間にわたる講演Bの1日目は、多職種連携教育や学習成果基盤型教育の重要性について片岡先生が所属されている昭和大学の取組みを交えてご教授いただきました。

続いて15時30分より分科会が4つのテーマに分かれて開催されました。

分科会第1テーマは『学び方を学ぶ』～入学前学生教育と明日から使える教員のための「伝える技術」～の演題で新宿医療専門学校の山口 絢香先生にご講演いただきました。座長は新宿医療専門学校の春日 貴之先生にご担当いただきました。山口先生が新宿医療専

門学校で取り組んでいる「入学前基礎勉強会」について入学後の学習をいかにスムーズにしていくかという点と「伝える技術」としてユニバーサルデザインの考えに基づく講義資料の作成の仕方をご教授いただきました。

分科会第2テーマは『職場でのコミュニケーションスキルアップとそのための考え方』の演題で日本航空客室乗務員チーフパーサー JALビジネスキャリアサポートアドバイザーの阿部 希先生にご講演いただきました。座長は九州医療スポーツ専門学校の桑野 幸仁先生にご担当いただきました。阿部先生が客室乗務員として日頃より実践している「コミュニケーションのコツ」を参加者が「ワーク」を通じて実体験しながらご教授いただきました。

分科会第3テーマは『超音波エコーの指導方法』の演題で株式会社エス・エス・ビー 営業企画本部 本部長の青木 崇晶先生にご講演いただきました。座長は新宿医療専門学校の岩坪 弘之先生にご担当いただきました。柔道整復師として重要なスキルの一つであるエコーについて授業のなかでどのように学生に指導をすることで知識、技術を深めることが出来るのかをご教授いただきました。

分科会第4テーマは『整復シミュレータで拓く柔道整復師の新時代』～理論を实践へ、整復を数値化する～の演題で株式会社フラディス 高須 勇斗先生にご講演いただきました。座長は森ノ宮医療学園専門学校の葉山が担当させていただきました。柔道整復師は医師の同意を得て「骨折」「脱臼」の施術を行うことが出来るが、学校教育としては健常な学生同士での練習のみしか行えない現状を踏まえ、実際に整復シミュレータを用いてどのように指導し教育効果を上げるのか、またそれをどのように評価するのかをご教授いただきました。

16時50分よりポスターセッションが開催され全4題（研究助成2題、一般発表2題）の発表が会場1階のラウンジにて口頭発表の形式で行われました。

今回の研究発表は下記の通りです。（1,2研究助成、3,4一般発表）

1. 『スマートフォン利用が姿勢に及ぼす影響』

明治東洋医学院専門学校 神内 伸晃・棚原 勝平・斎藤 雅高

2. 『クラブチーム下部組織高校女子サッカー選手の睡眠教育による睡眠習慣、体組成および運動パフォーマンスへの影響について』

日本体育大学 祁答院 隼人・伊藤 譲・大石 有希子・二連木 巧・佐藤 裕二・増田 大聖・杉澤 舜

3. 『柔道整復教育の解剖学分野におけるVR教育とCラーニング教育の教育効果の比較について』

四国医療専門学校 四宮 英雄

4. 『性格特性と成績変遷との関連性－試験滞在時間を基とした学生指導方針の模索－』
平成医療学園専門学校 石井 裕己・丹治 良輔・樋口 朋基・嶋田 リエ・
北野 吉廣

ポスターセッション終了後にホテルメトロポリタンエドモントまでチャーターバスで移動して18時40分より懇親会が開催されました。主幹校の新宿医療専門学校 小倉 芳裕校長よりご挨拶があり、続いて公益社団法人 東京都柔道整復師会 会長 瀧澤 一裕先生よりご祝辞を賜り、公益社団法人 全国柔道整復学校協会 坂本 歩顧問の乾杯のご発声により懇親会が始まりました。今年度も他校の先生と多くの交流を図ることが出来た懇親会となりました。中締めは公益社団法人 全国柔道整復学校協会 米田 忠正監事にいただき、懇親会を終了しました。

2日目は9時より講演が始まりました。

講演A-2-1は『教育に生かすコミュニケーション技術』の演題で東京工芸大学 芸術学部長 教授 大島 武先生にご講演いただきました。座長は新宿医療専門学校の小倉 芳裕校長にご担当いただきました。大島先生が過去の経験から導き出した『わかりやすく話すための8箇条』やご自身の過去の失敗事例もご紹介いただき、ゲームやクイズを交えながら楽しくご教授いただきました。

講演B-2-1は初日に引き続き昭和大学歯学部歯学教育学講座 歯科理工学講座 准教授の片岡 有先生にご講演いただきました。座長も初日に続き新宿医療専門学校の関口 将一先生にご担当いただきました。前日の講演内容を基に『生涯学び続けることができる柔道整復師を育成するためのカリキュラム』を参加者がグループを作って討議し、その内容を発表するワークショップ形式で実施されました。

10時40分からの講演A-2-2は以下の3演題がひとつの講演内で実施されました。

1. 「信頼される柔道整復師養成施設とは」～柔道整復の未来を拓く「第三者評価」～
一般社団法人柔道整復教育評価機構 理事長 関口 正雄 先生
2. 『信頼される柔道整復師の養成』～柔道整復師学校養成施設カリキュラムのスクラップ
&ビルド～
全国柔道整復学校協会 理事 斎藤 秀樹 先生
3. 『多職種連携を見据えた柔道整復学教育モデル・コア・カリキュラムの必要性』
全国柔道整復学校協会 理事 伊藤 譲 先生
座長は学校法人森ノ宮医療学園 理事長 清水 尚道 先生にご担当いただきました。

講演終了後、12時10分より閉会式が行われ、「次年度研修会案内」を教員研修等部会を代表して葉山より行わせていただき、続いて全国柔道整復学校協会 副会長 関口 正雄 先生の閉会の辞をもって終了しました。

「柔道整復の新時代へ」というテーマのもと開催された第66回教員研修会が参加された先生方にとって実り多きものになれば幸いです。また、参加者の皆様の研修会当日の円滑な進行へのご協力に深く感謝申し上げます。

第66回教員研修会の開催にあたり、全国柔道整復学校協会 谷口 和彦 会長、伊藤 譲 担当理事をはじめ、全国柔道整復学校協会役員の皆様方、ご来賓の皆様方、教育支援委員会教員研修等部会の皆様方、全国柔道整復学校協会会員の教職員の皆様方には多大なるご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

また、学校法人小倉学園 小倉 基義理事長、小倉 基宏副理事長、新宿医療専門学校 小倉 芳裕校長ならびに教職員の皆様方には主幹校の労を取っていただき感謝の念に堪えません。

最後に、今回の教員研修会の開催につきましては、教員研修等部会 前部会長の本澤 光則先生に多大なご尽力をいただきました。この場をお借りしまして心より御礼申し上げます。

次年度第67回教員研修会は福岡県博多で下記の通り開催されます。万障お繰り合わせの上、ご参加いただきますようお願い申し上げます。

日 程：令和7年9月27日（土）・28日（日）

研修会会場：福岡国際会議場（福岡県福岡市博多区石城2-1）

懇親会会場：福岡サンパレスホテル&ホール（福岡県福岡市博多区築港本町2-1）



開会式



公益社団法人 全国柔道整復学校協会
谷口 和彦会長



学校法人小倉学園 新宿医療専門学校
小倉 基宏副理事長



公益財団法人 柔道整復研修試験財団
今別府 敏雄代表理事



公益社団法人 日本柔道整復師会
長尾 淳彦会長



一般社団法人 日本柔道整復接骨医学会
安田 秀喜会長



講演 A-1-1 柳生 好之 先生



講演 B-1-1, B-2-1 片岡 有 先生



講演 A-2-1 大島 武 先生



講演 A-2-2 関口 正雄 先生



講演 A-2-2 齊藤 秀樹 先生



講演 A-2-2 伊藤 譲 先生



分科会第1テーマ 山口 絢香 先生



分科会第2テーマ 阿部 希 先生



分科会第3テーマ 青木 崇晶 先生



分科会第4テーマ 高須 勇斗 先生



ポスターセッション会場



協賛出展企業ブース



懇親会



公益社団法人 全国柔道整復学校協会

令和6年度 第7回理事会議事録

1. 開催された日時 令和6年9月20日（金）14：00～16：00

2. 開催された場所 全国柔道整復学校協会事務局
東京都港区浜松町1-6-2丸神ビル1階

3. 理事総数及び定足数 総数 9名、定足数 5名

4. 出席理事数 9名

5. 議長 会長 谷口和彦

6. 議題

協議・決議事項

第1号議案 次期カリキュラム改訂に向けた検討の件

第2号議案 2025年 第67回 教員研修会の件

報告事項

第1号報告 代表理事の職務執行報告及び行事予定（9月、10月）の件

第2号報告 各委員会等

第3号報告 関係団体

第4号報告 その他

7. 議事の経過及びその結果

(1) 定足数の確認等

冒頭で事務局長より、オンラインによる出席を含めて理事総数9名中全員が出席であること、したがって開催要件の定足数たる過半数5名以上の出席を充足していることを確認した。

(2) 議案の審議状況及び議決結果等

定款第32条の規定に基づき、谷口会長が議長として本会議の成立を宣した。

議事録署名人は定款第33条第2項の規定に基づき、谷口会長、関口副会長、米田監

事及び清水監事とし、議案の審議に移った。

協議・決議事項

①第1号議案 次期カリキュラム改訂に向けた検討の件

谷口会長から、9月3日（火）厚労省との会議、及び9月12日（木）日本柔道整復師会の長尾会長との打合せ状況について説明。内容としては、超音波観察装置と災害時における柔道整復師の役割の2件。超音波観察装置はアンケートの実施、災害に関しては日本柔道整復師会としての体制の取りまとめを依頼した旨を報告。学校協会の超音波観察装置に関するアンケート調査結果についても、殆どの学校が装置を保有していることを報告。

齊藤理事から、資料に基づき追加のアンケート調査の内容として、

- ・高齢者及び競技者の生理学的特徴の専門基礎分野から専門分野への移動
- ・災害時における柔道整復師の役割に関する講義の有無
- ・柔道の専門基礎分野から専門分野への移動
- ・機能訓練指導員としての就業状況

を調べることについて説明。あわせて、9月22日の教員研修会においてもアンケートへの協力をお願いすることを説明。内容については、審議を踏まえて就業状況の区分や対象とする卒業生の年度などを見直すこととなった。

議長は、アンケート調査の実施について議場に諮ったところ、出席理事全員異議なくこれを承認し、本議題は継続審議となった。

②2号議案 2025年 第67回 教員研修会の件

伊藤理事から、資料に基づき第67回 教員研修会における運営等業者について3業者の見積金額が諮られ、ごみの処理に関しては引き続き方法を検討することとし、金額が一番安価で実績もある業者が選定され、本議案について議長が議場に諮ったところ、出席理事全員異議なくこれを承認可決した。

報告事項

①第1号報告 代表理事の職務執行報告と行事予定（9月、10月）の件

事務局長から、9月及び10月の各委員（部）会並びに学校協会等諸行事の予定を報告。続いて、議長が質問並びに意見を求めたところ、出席理事全員異議なく報告のとおり了承された。

次に、事務局長から10月の移動理事会について準備状況を報告。

②第2号報告 各委員会等

ア. 教育支援委員会教科書部会

特になし。

イ. 教育支援委員会教員研修等部会

伊藤理事から、翌21日から始まる第66回の教員研修会について、対応するスケジュールの確認が行われた。

また、次々回第68回の教員研修会について、大阪で行う旨の確認がなされた。

ウ. 教育支援委員会専科教員認定講習部会

奥田理事から、一部日程が台風の影響を受けたが対応できたこと、残る修了試験と閉講式に向け順調に進んでいる旨の報告。

エ. 教育支援委員会柔道整復師国家試験模擬試験部会

齊藤理事から、模擬試験問題について、ほぼ固まってきたことの報告。

オ. 広報・調査委員会

大麻理事から、令和6年度の入学者の構成に関するアンケート調査結果の概要について報告。

カ. 柔道委員会

廣岡理事から、来年度の柔道大会について、8月5日（火）に東京武道館で開催が予定されていることについて報告。

キ. 組織運営委員会

田中理事から、今年度会員校名簿の作成状況等について報告。

続いて、議長が質問並びに意見を求めたところ、出席理事全員異議なく報告のとおり了承された。

③第3号報告 関連団体

ア. (公財) 柔道整復研修試験財団

関口副会長から、認定実技審査委員会と実技合格学生の初段取得の動きについて報告。

イ. (一社) 日本柔道整復接骨医学会

伊藤理事から、接骨医学会学術大会の概要について報告。

ウ. (公社) 日本柔道整復師会

奥田理事から、9月8日に開催された東京都柔道整復師会第42回東京学術大会

の参加結果について報告。

エ. (一社) 柔道整復教育評価機構

関口副会長から、今年度の分野別評価を受ける四国医療専門学校の評価の準備状況と今年度中に統合版の評価基準の見直しを進める旨を報告。

また、資料に基づき文部科学省の「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進事業」について報告。

オ. 厚生労働省

特になし。

カ. 文部科学省

関口副会長から、文部科学省の「学校基本調査」の速報概要について報告。

最後に、事務局長より、懸案として残っている「模擬試験の公益事業化」と「学校運営・教育の改善・向上を支援する事業の会員相互扶助事業としての創設」について、事業計画と収支予算の対応方策と進め方を報告。

続いて、議長が質問並びに意見を求めたところ、出席理事全員異議なく報告のとおり了承された。

以上をもって議案の審議等を終了したので、16時00分、議長は閉会を宣し解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した会長、副会長及び監事は記名押印する。

令和6年9月20日

会 長 谷 口 和 彦 印

副 会 長 関 口 正 雄 印

監 事 米 田 忠 正 印

監 事 清 水 尚 道 印



公益社団法人 全国柔道整復学校協会

令和6年度 第8回理事会議事録

1. 開催された日時 令和6年10月17日（木）15：00～17：00
2. 開催された場所 ダブルツリー by ヒルトン富山 3階「ボードルーム」
富山市新富町1-1-10
3. 理事総数及び定足数 総数 9名、定足数 5名
4. 出席理事数 9名
5. 議長 会長 谷口和彦
6. 議題
 - 協議・決議事項
 - 第1号議案 次期カリキュラム改訂に向けた検討の件
 - 第2号議案 令和6年度 事業計画の変更及び補正予算の件
 - 第3号議案 特定資産運用の件
 - 第4号議案 今年度（下半期）理事会等開催日程の件
 - 報告事項
 - 第1号報告 代表理事の職務執行報告及び行事予定（10月、11月）の件
 - 第2号報告 各委員会等
 - 第3号報告 関係団体
 - 第4号報告 その他
7. 議事の経過及びその結果
 - (1) 定足数の確認等
 - 冒頭で事務局長より、理事総数9名中全員が出席であること、したがって開催要件の定足数たる過半数5名以上の出席を充足していることを確認した。
 - (2) 議案の審議状況及び議決結果等
 - 定款第32条の規定に基づき、谷口会長が議長として本会議の成立を宣した。

議事録署名人は定款第33条第2項の規定に基づき、谷口会長、関口副会長、米田監事及び清水監事とし、議案の審議に移った。

協議・決議事項

①第1号議案 次期カリキュラム改訂に向けた検討の件

谷口会長から、日本柔道整復師会で行われている

- ・超音波観察装置のアンケートが間もなくとりまとめられること
- ・災害時の対応が取りまとめられ、学校協会に示されたこと

が説明され、これらを踏まえてカリキュラム改訂検討小部会で作業し、11月6日に予定されている厚生労働省との打合せに臨む旨を報告。

また、作業を止めていたコア・カリキュラムの策定については、少しずつ進めていくと説明。

9月27日に行われた全国柔道整復師統合協議会との一部役員との意見交換会について報告がなされ、

- ・画像については、医師と連携してレントゲン写真を活用していること
 - ・機能訓練指導員については、柔道整復師として生計を立てるのは難しいこと
- など一部の意見が紹介された。

引き続き、厚生労働省との打合せやカリキュラム改訂検討小部会の動きを理事会に報告することを説明。

議長は、本議案について議場に諮ったところ、出席理事全員異議なくこれを承認し、本議題は継続審議となった。

②2号議案 令和6年度事業計画の変更及び補正予算の件

事務局長から、資料に基づき学校運営・教育の改善・向上を支援する事業の創設に伴う事業計画の変更及び令和6年度補正予算並びに表彰規程の改正について説明。

本議案について議長が議場に諮ったところ、

- ・支援対象校に対する副賞の額は次年度以降見直しを検討することとし、事業計画の変更届の手続きを進めることについては、出席理事全員異議なくこれを承認可決した。
- ・対象校と副賞を審議する質保証向上支援委員会の規程及び委員の選任については、継続審議となった。

③3号議案 特定資産運用の件

事務局長から、特定資産のうち公益目的保有財産の投資有価証券（日本高速道路保有・債務返済機構債1億円）が11月29日に満期が到来する旨を説明。

審議の結果、用途について良い案があれば提案して貰うこととし、本議案は継続審

議となった。

④4号議案 今年度（下半期）理事会等開催日程の件

事務局長から、今年度下半期理事会等の開催日程案を説明。審議の結果、例年12月に開催している会員協議会を3月の臨時総会時に併せて開催することとし、出席理事全員異議なくこれを承認可決した。

報告事項

①第1号報告 代表理事の職務執行報告と行事予定（10月、11月）の件

事務局長から、10月及び11月の各委員（部）会並びに学校協会等諸行事の予定を報告。続いて、議長が質問並びに意見を求めたところ、出席理事全員異議なく報告のとおり了承された。

②第2号報告 各委員会等

ア. 教育支援委員会教科書部会

特になし。

イ. 教育支援委員会教員研修等部会

伊藤理事から、令和7年度の学校運営改善等助成事業（研究助成）について、11月1日から募集を開始する旨、また、専任教員を対象に行われた助成事業における研究分野の希望調査の結果が報告された。研究分野としては学生のモチベーションが圧倒的であった旨の報告がなされ、この結果に基づき進めることについて理事会として承認された。

次に、学校運営改善等助成事業（研究助成）助成金交付要綱に定める各種様式が別途示され、次回の理事会において協議・決議事項として諮る旨を報告。

ウ. 教育支援委員会専科教員認定講習部会

奥田理事から、大阪会場の閉講式を残し問題なく終了している旨の報告。また、回答率の良くない受講者アンケートについては、今後改善策を検討する旨の報告。

エ. 教育支援委員会柔道整復師国家試験模擬試験部会

齊藤理事から、今年度模擬試験の受験参加状況について報告。

オ. 広報・調査委員会

大麻理事から、年賀状に代わる新年挨拶の方法について報告。東洋療法学校協会と歩調を合わせることにした。

また、学校協会から会員校への情報提供方法について、良案があれば提案する旨を報告。

カ. 柔道委員会
特になし。

キ. 組織運営委員会
田中理事から、会員校名簿が完成し配布された旨の報告。

続いて、議長が質問並びに意見を求めたところ、出席理事全員異議なく報告のとおり了承された。

③第3号報告 関連団体

ア. (公財) 柔道整復研修試験財団
関口副会長から、施術管理者研修の対面による実施について、効果面、費用面等から引き続き検討しているとの報告。

イ. (一社) 日本柔道整復接骨医学会
伊藤理事から、接骨医学会学術大会について報告。

ウ. (公社) 日本柔道整復師会
特になし。

エ. (一社) 柔道整復教育評価機構
関口副会長から、日本柔道整復接骨医学会から正式に団体として推薦する文書を受理した旨の報告。

オ. 厚生労働省
特になし。

カ. 文部科学省
特になし。

ク. その他
奥田理事から、学校法人敬心学園の日本医学柔整鍼灸専門学校が来年4月に略称の日本医専が正式名称となることについて報告。

④第4号報告 その他

日本柔道整復師会から学校協会に柔道整復記念碑の写真パネルが送られてきた旨の報告。

続いて、議長が質問並びに意見を求めたところ、出席理事全員異議なく報告のとおり了承された。

以上をもって議案の審議等を終了したので、17時00分、議長は閉会を宣し解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した会長、副会長及び監事は記名押印する。

令和6年10月17日

会 長 谷 口 和 彦 印

副 会 長 関 口 正 雄 印

監 事 米 田 忠 正 印

監 事 清 水 尚 道 印



公益社団法人 全国柔道整復学校協会

令和6年度 第9回理事会議事録

1. 開催された日時 令和6年11月15日（金）14：00～16：00

2. 開催された場所 全国柔道整復学校協会事務局
東京都港区浜松町1-6-2丸神ビル1階

3. 理事総数及び定足数 総数 9名、定足数 5名

4. 出席理事数 9名

5. 議長 会長 谷口和彦

6. 議題

協議・決議事項

第1号議案 次期カリキュラム改訂に向けた検討の件

第2号-1議案 令和7年度 学校運営改善等助成事業（研究助成）の件

第2号-2議案 2025年 第67回 教員研修会のサブテーマの件

第3号議案 国家試験模擬試験事業の公益事業化の件

第4号議案 専科教員認定講習会の件

第5号議案 特定資産運用の件

報告事項

第1号報告 代表理事の職務執行報告及び行事予定（11月、12月）の件

第2号報告 各委員会等

第3号報告 関係団体

第4号報告 その他

7. 議事の経過及びその結果

(1) 定足数の確認等

冒頭で事務局長より、理事総数9名中全員が出席であること、したがって開催要件の定足数たる過半数5名以上の出席を充足していることを確認した。

(2) 議案の審議状況及び議決結果等

定款第32条の規定に基づき、谷口会長が議長として本会議の成立を宣した。

議事録署名人は定款第33条第2項の規定に基づき、谷口会長、関口副会長、米田監事及び清水監事とし、議案の審議に移った。

協議・決議事項

①第1号議案 次期カリキュラム改訂に向けた検討の件

谷口会長から、資料に基づき厚生労働省との打合せ状況について報告。

- ・超音波観察装置については、アンケート結果の保有状況から、厚生労働省も拒絶感はなくなってきたと思われること
- ・機能訓練指導員については、介護分野における活躍の場との表現ではなく、機能訓練指導員の表現を使いたいこと
- ・臨床コミュニケーションについては、必要性はある程度認められたが、具体的には養成施設指導ガイドラインで示す方が良いとの意見が出たこと
- ・災害時の役割については、地域の柔道整復師会と地元自治体が締結している協定書の内容で確認できると思われること
- ・柔道については、アンケート結果では平均4単位であり、担う教官に係るネガティブな意見が出ていたこと
- ・臨床実習については、参加型の単位数は示さず、含むとの表現での整理を考えていること
- ・柔道整復実技に多くの内容を盛り込むことについては、コア・カリキュラムと絡めて説明する必要があると考えていること

を報告。

今後の予定については、11月21日（木）に予定されているカリキュラム改訂検討小部会に臨床実習と柔道整復実技の練り直しを依頼。厚生労働省とは12月19日（木）に次の打合せが予定されているので、翌日の理事会で報告することを説明。

議長は、本議案について議場に諮ったところ、出席理事全員異議なくこれを承認し、本議題は継続審議となった。

②2号-1議案 令和7年度 学校運営改善等助成事業（研究助成）の件

伊藤理事から、前回の理事会で報告された学校運営改善等助成事業（研究助成）助成金交付要綱に定める様式について改めて要点の説明がなされた。

議長は、本議案について議場に諮ったところ、出席理事全員異議なくこれを承認可決した。

③ 2号-2議案 2025年 第67回 教員研修会のサブテーマの件

伊藤理事から、来年の教員研修会のテーマについて、メインは理事会、サブは教員研修等部会がそれぞれ主導するとの棲み分けをしてはどうかとの提案。

その上で資料に基づき3つのサブテーマ候補が示されたが、リーダー育成の観点から「人材の育成」を追加してはとの意見があり、教員研修等部会において再度検討することとし、本議案について議場に諮ったところ、出席理事全員異議なくこれを承認可決した。

④ 3号議案 国家試験模擬試験事業の公益事業化の件

事務局長から、資料に基づき国家試験模擬試験事業の法人会計からの変更について説明があったが、公益事業化については公認会計士事務所との打合せ結果と異なるため議題としては廃案として、次回の理事会において収益事業化として改めて審議することとし、本議案は継続審議となった。

⑤ 4号議案 専科教員認定講習会の件

事務局長から、専科教員認定講習会実施規程の第12条に定める修了試験合格証の様式が示され、審議の結果、出席理事全員異議なくこれを承認可決した。

次に、事務局長から、資料に基づき専科教員認定講習会の経理について説明。内閣府から指摘を受けている多額の仮払金については、学校協会事務局が支払業務を行うことも見据えつつ、来年度については委託としての検討を進めることとなった。

議長は、本議案について議場に諮ったところ、過半数の賛成で本案を可決した。

⑥ 5号議案 特定資産運用の件

事務局長から、前回の理事会で継続審議となった公益目的保有財産の投資有価証券(11月29日満期到来の日本高速道路保有・債務返済機構債1億円)について、住宅金融支援機構債券(グリーンボンド)の購入を検討してはどうかと提案。

審議の結果、同案を採用することとし、出席理事全員異議なくこれを承認可決した。

報告事項

① 第1号報告 代表理事の職務執行報告と行事予定(11月、12月)の件

事務局長から、11月及び12月の各委員(部)会並びに学校協会等諸行事の予定を報告。続いて、議長が質問並びに意見を求めたところ、出席理事全員異議なく報告のとおり了承された。

②第2号報告 各委員会等

ア. 教育支援委員会教科書部会

齊藤理事から、柔整理論の教科書の部分改正を考えており、出版社と話を進めているので、年内に部会の開催を予定しているとの報告。

イ. 教育支援委員会教員研修等部会

伊藤理事から、

- ・令和7年度の学校運営改善等助成事業（研究助成）について、ホームページで公開され募集が始まっていること
- ・来年の第67回教員研修会のタイムテーブルについて、現行案の報告があり、内容を詰めたうえで次回12月の理事会で協議・決議事項として諮り、1月には講師の選定を始めたいこと
- ・令和6年度の厚生労働省研究事業による遠隔授業のアンケート結果を資料として報告。令和7年度は第三者評価をまとめる予定であり、教育評価機構と調整していく

との報告。

ウ. 教育支援委員会専科教員認定講習部会

奥田理事から、11月11日の部会において

- ・令和7年度の講習会の主幹校・協力校が決定したこと
- ・回答率の良くないアンケートについては、講義終了後のアンケートの回答をもって出席とすることとしたこと
- ・教育実習の期間設定は、9月末までとしたこと

との報告。

エ. 教育支援委員会柔道整復師国家試験模擬試験部会

齊藤理事から、10月31日に開催された今年度の第1回模擬試験作業部会の報告。

2回目以降も予定されており、早く作業を進めるとの報告。

オ. 広報・調査委員会

大麻理事から、専科教員認定講習会の参加者減への対応として、

- ・鍼灸柔整新聞への出稿
- ・日本柔道整復師会の会報への掲載
- ・学校協会ホームページにおける専科教員認定講習会バナーの設置

に取り組んでいるとの報告。

また、学校協会ホームページにおける会長の新年挨拶については、東洋療法学

校協会と歩調を合わせることにした。

カ. 柔道委員会

特になし。

キ. 組織運営委員会

特になし。

続いて、議長が質問並びに意見を求めたところ、出席理事全員異議なく報告のとおり了承された。

③第3号報告 関連団体

ア. (公財) 柔道整復研修試験財団

関口副会長から、施術管理者研修の対面による実施について、次週の委員会において議論されるとの報告。

イ. (一社) 日本柔道整復接骨医学会

伊藤理事から、接骨医学会学術大会の開催案内。

ウ. (公社) 日本柔道整復師会

特になし。

エ. (一社) 柔道整復教育評価機構

特になし。

オ. 厚生労働省

特になし。

カ. 文部科学省

関口副会長から、学校教育調査における学生在籍状況の報告。

続いて、議長が質問並びに意見を求めたところ、出席理事全員異議なく報告のとおり了承された。

以上をもって議案の審議等を終了したので、16時00分、議長は閉会を宣し解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した会長、副会長及び監事は記名押印する。

令和6年11月15日

会 長 谷 口 和 彦 印

副 会 長 関 口 正 雄 印

監 事 米 田 忠 正 印

監 事 清 水 尚 道 印

令和6年度 第3回教育支援委員会 教科書部会 議事録

日 時 2024年12月12日（木）14：00～15：00
会 場 （公社）全国柔道整復学校協会 / ZOOMによるオンライン会議
出席者 対面参加（3名：担当理事、正・副部長）、オンライン参加（10名：部会員）
記 録 副部長

第3回教科書部会にて、柔道整復学・理論編 改訂第7版の改訂についての検討を行った。但し今回は版の改訂（第8版の作成）ではなく、下記に示す3項目についての微調整を行い、第8版への大改訂は、現在進行中のカリキュラム検討委員会の進捗状況に応じて行っていくこととする。

1. 記載内容の確認及び修正について

- ・第6版から第7版への改訂作業については短期間に行ったため記載内容に修正を必要とする箇所が見受けられるため、この確認及び修正作業を行っていく。

例) 教科書P231 赤枠部分 CM ⇒ MP に修正 など

■ 整復法

- (1) 手関節を軽度伸展(背屈)位に保持して固定する。
- (2) 患指の中手指節関節を直角に屈曲する。
- (3) 中手骨長軸末梢方向に牽引しつつ基節骨を介して遠位骨片を背側に突き上げる。
- (4) 一方の手で背側凸に変形した近位骨片骨折端に圧迫を加えて整復する。

〔 ● 中手指節 **CM** 関節を屈曲するのは同部の側副靭帯を緊張させ、中手骨頭に牽引力を有効に作用させるためである(図1-2-58). 〕

- ・今回の確認及び修正作業は、文章内の「てにをは」及び上記に示すような間違った記載の修正をメインとして行うが、補足が必要な部分についても意見があれば上げていただく。

例) 教科書付録部分の検査法の内容を充実させるなど。

- ・修正に際しては『柔道整復学・実技編 第2版』の内容との整合性をとる必要はなく、理論編の内容を主として行う。

※部員より『理論編』と『実技編』の記載内容の違いとして、例えば固定期間などが違っているが、その部分の整合性についてはどのようにすればよいかとの質問が挙がったが、齊藤理事より上記の回答があった。

- ・確認及び修正案の作成は、項目を分担せず各部員が全項目について実施する。
修正案については配布するフォーマットの記載例に準じ入力し、6月末日までに『村澤』までメール添付にて提出することとする。その後各部員の意見を集約し、修正が必要かどうかについて部会内で検討していく。

2. 動画内容の修正について

- ・現在掲載されている、教科書の付録部分の43本の検査法の動画内容を刷新していく。
以前の部会にて電子教科書への移行に際して、動画作成を業者に依頼するとの話が上がっていたが、今回の作成は部会内で行っていく。
※動画視聴のQRコードは教科書の目次部分に示されている。

■動画閲覧について

南江堂ホームページ内 https://www.nankodo.co.jp/video/9784524233182/9784524233182_index.html に関連動画を掲載しています。

ご使用のインターネットブラウザに上記 URL を入力いただくか、QR コードを読み込むことによりメニュー画面が表示されます。ご希望の動画を選択すると動画が再生されます。なお、本 web サービスについては、以下の事項をご了承のうえ、ご利用ください。

- 本動画の配信期間は、本書第1刷発行日より5年間を目途といたします。ただし、予期しない事情によりその期間内でも配信を停止する可能性があります。
- パソコンや端末の OS バージョン、再生環境、通信回線の状況によっては、動画が再生されないことがあります。
- 本動画の閲覧に伴う通信費などはご自身でご負担ください。
- 本動画に関する著作権はすべて公益社団法人 全国柔道整復学校協会にあります。情報の一部または全部を、無断で複製、改変、頒布（無料での配布および有料での販売）することを禁止します。



現在の動画は音声が無いので、音声を入れつつ内容の微調整を行っていく。

- ・動画作成の担当を部会内で募った結果、以下の部員の協力を得ながら、今後動画の作成を行っていくこととした。
撮影作業は佐藤部員、編集作業は齊藤（慎）部員を中心として進めていくこととする。
- ・動画の作成については生駒部員より、三輪書店の書籍『ROM測定』の付録動画が見やすいので参考にしようかとの意見を頂いた。
- ・編集作業については、サムネイルやフォントのズレが生じることが懸念されるため、最初に1本フォーマットを作成し（齊藤部員にお願いすることとなった）、そのフォーマットをもとに統一感をもって作成ができるように各部員に割り振っていくこととした。

作成スケジュールは、今後齊藤理事と三澤部会長で決定の上各部員に通達する。
 ※動画については現QRコードにて、差し替えがいつでもできるため動画が完成次第差し替えを行う。

【動画作成担当】

総括	齊藤理事、三澤部会長
撮影作業	☆佐藤部員、村澤
編集作業（文字入れ）	☆齊藤（慎）部員、測ノ上部員、錦織部員、生駒部員、鈴部員 水元部員、徳安部員

3. 付録『関節可動域表示並びに測定法』の修正について

- ・2022年4月より「関節可動域表示並びに測定法」について変更があったが現教科書ではこの内容が反映されていない。令和7年度発行の教科書への反映は間に合わなかったため、令和8年度発行の教科書にて、今回の修正内容と合わせてROM部分の変更内容を反映していくこととする。
- 変更については南江堂が行うため、教科書部会にて行う作業はない。

その他

1) 整復及び固定の動画について

- ・齊藤理事及び三澤部会長より現在掲載されている検査法の動画以外に、整復法や固定法の動画についても教科書に組み込んでいきたいとの話があり、部員より以下の意見が上がった。(抜粋)

「日整が作成している『匠の技 伝承』プロジェクトの動画を使わせていただいてはどうか？」
 ⇒お願いはしたが断られてしまった。

「各地域の柔道整復師会に依頼して動画を提供していただいてはどうか？」
 ⇒先生方からご紹介いただければ、学校協会として正式に依頼を使用と思う。
 但し費用の面などもあると思うので一度理事会でその旨を挙げてみる。

現段階では、整復及び固定の動画については具体的な話として挙がってはいないが、検査法の動画と同じくQRコードにて視聴可能なため、今後徐々に動画を集めていきたいと思っている。

以上



令和6年度 第4回教育支援委員会 教員研修等部会 議事録



日 時	令和6年10月22日（火）14：00～16：00
会 場	（公社）全国柔道整復学校協会、ZOOMによるオンライン併用会議
出席者	9名（担当理事、部員7名、今年度主幹校1名）

議 題

- (1) 第66回教員研修会について
- (2) 第67回教員研修会について
- (3) 第68回教員研修会について
- (4) 学校運営改善等助成事業について
- (5) その他

配布資料

- (1) 第66回教員研修会について
 1. 参加登録者一覧
 2. 管理表
 3. アンケート
 4. 広告協賛について
 5. 収支予算書

会議内容

定刻となり伊藤担当理事の挨拶後、議事へと進行した。

- (1) 第66回教員研修会について

令和6年度教員研修会について、主幹校である新宿医療専門学校の関口先生から、資料に沿って以下の説明がなされた。

<研修会の報告>

- ・参加人数について、研修会は会員校300名、非会員校48名、合計348名の参加。懇親会は188名の参加であった。
- ・申込では、講演 A 256名、講演 B90名、第1テーマ193名、第2テーマ75名、第3テーマ43名、第4テーマ35名であった。

- ・懇親会は、来賓や講師、理事については席が用意されていた方が案内しやすく、運営しやすかった。

費用面も変わらない。

→ 来年度以降も費用が大きくかからなければ、同様とする。

- ・アンケート結果については資料を参考にさせていただきたいが、気になったところとしては、分科会の実技については時間が短かった。対応策として講演内容を事前に告知し対象者を選抜しておけばよかった。

- ・ポスターセッションについて、助成金交付発表 2 題、一般公募発表 2 題、合計 4 題であった。

- ・ポスターの配置の仕方やラウンジ利用し、バスの待機場所と重なり声が届きにくかった。教室をもう一部屋押さえてポスター会場とすればよかった。

- ・協賛広告企業について、広告は14社 693.000万円、出展は14社 880.000円、チラシ配布は22.000円、合計1.595.000円の収益であった。

→ チラシの配布については、当初予定していなかったもので周知できていなかったが、企業からはとても好評であったため金額を上げてよいのではないか。

- ・募集方法としては、第65回の協賛企業へ案内、また先生方からの紹介や主幹校の付き合いのある企業へ案内した。

→ 協賛企業との関係を学校としての付き合いで終わらず、部会として付き合いをしていけばもっと増えるのではないか。

→ 研修会当日、部会として企業に挨拶する機会を作ってはどうか。

- ・収支予算書については別資料をご確認いただきたい。

→ 予算書について部会員が承認。

- ・協賛企業や講演者から荷物の搬入について、会場に送りたいという問い合わせがあり、主幹校に届けていただいたり、当日持参していただいたりと個別の対応となった。同時に搬出の問題もするため、今後大学等の会場で開催する場合は、統一した流れを作れると良いのではないか。

- ・日当について、最終的に清算はしていただけるが一時的に学校の立て替え払いが大きくなることがあるので、今後「(事前) 預り金」の導入などの検討が必要なのではないかとの意見が出された。

- ・HISの薦めにより進行ディレクターをつけたおかげで、当日色々な変更面も対応でき、円滑に運営できた。

→ 予算面の都合もあると思うが、来年度以降も検討できると良いのではないか。

<部会員からの感想や質疑応答>

- ・移動のバス運用について、地方の方からは少し東京観光ができてよかったとの声があった。

- ・分科会やバスの号車等を名札の裏に記載していただきわかりやすかった。
- ・配布資料に関して、全体の講演で置かれている資料をとっていいかが不明確であった。
- ・アンケート回答数145件というのは例年に比べて多いのか少ないのか、QRコード配布のタイミングが初日だったこともあり、どうだったのか知りたい。
 - 初日のみ参加の方もいらっしゃると思え、初日に配布した。回答数は伸びなかったと感じている。来年度以降、閉会式前に5分程度アンケートに回答する時間を設けてはどうか。
- ・昨年出展されて今年度出展されなかった企業に理由を問い合わせたところ、名刺交換した教員にメールを送ったがレスポンスがまったくなかったとの回答であった。
 - 今後、企業にメリットを示せるものを提示することは必要。
 - 企業ブースを見る時間を研修中に作ってはどうか。
 - 研修開始前は盛り上がるが、それ以外の時間の使い方をどうするか。
 - 企業PRできる時間を作ってはどうか。ホームページで紹介してはどうか。

(2) 第67回教員研修会について

桑野副部長から、以下の説明がなされた。

第67回（2025年）教員研修会（福岡県）開催概要について

1. 日程：2025年（令和7年）9月27日（土）28日（日）
2. 会場：福岡国際会議場
3. テーマ：柔道整復の新時代へ
4. サブテーマ：未定
5. プログラム：未定
6. 実行委員会本部担当理事：水嶋章陽、伊藤 譲

7. 協力校（案）

福岡医療専門学校
 福岡医健・スポーツ専門学校
 福岡天神医療リハビリ専門学校
 九州医療スポーツ専門学校
 九州医療専門学校

8. 実行委員会委員（10名）（案）

実行委員長：葉山直史
 実行副委員長：桑野幸仁
 アドバイザー（前回開催校）：関口将一（新宿医療）

委員（次回開催校）：外林大輔（森ノ宮医療学園）

※その他、委員は部会と協力校から選出する。

9. 懇親会会場：福岡サンパレスホテル&ホール

10. 運営業者：エヌショーケース株式会社（担当者：濱田）

- ・協力校の位置付けとしては、懇親会会場や講師の選定、当日の運営手伝い等が考えられる。
 - 講師選定について、学校での成功事例等の共有などもしていただきたい。
 - 会員校以外の学校にもご協力いただきたい。
- ・部会からは加藤先生、有山先生に委員に加わっていただきたいがどうか。
- ・実行委員会について、当日の交通・宿泊費に関しては委員の負担がない方向で検討していく。
- ・サブテーマについては部会から提案したいと考える。
 - 部会員からアンケートをとり、11/6までに3つにまとめる。
 - 部会員はひとり3案を葉山部会長にメールで送る。締め切りは10/30（木）11：59まで。締め切り後、伊藤担当理事、桑野副部長と協議する。
 - 方向性としては、現状の教育上の課題を解決するようなテーマにする。サブテーマの決定後、学校協会会員校に講演テーマのアンケート調査を行う。また協力校に講師調査を行っていく。

【プログラムについてのスケジュール（予定）】

- ・11/15（金）理事会後、サブテーマを元にどんな講演テーマ・内容がよいかを調査する。
 - アンケートは11月中に実施（11/18～12/6の期間での実施が理想）
 - 講師の案があればいただきたいが、できれば九州ブロックの講師が理想。
- ・12/20（金）理事会に方向性（どういった講演テーマ・内容、講演の先生がよいか）のプログラム事案提出
 - 講師選定（12/21～1/11）
 - 1/17（金）理事会にプログラム案提出
 - 2/21（金）理事会には講師の内諾を得た状態にしておきたい
 - 3月 ホームページ 案内

<質疑応答>

- ・ポスターセッションの方法についてはどうか。
 - 研修プログラム内に時間を作り、主会場で発表いただく。

(3) 第68回教員研修会について

葉山部会長から、以下の説明がなされた。

- ・大阪開催の協力校として森ノ宮医療学園専門学校にお願いする。
- ・開催場所は大阪工業大学または大和大学での開催案があるが、いずれも2026年1月まで予約できないことが難点となっている。
- ・森ノ宮医療大学をお借りしての開催案が有力となっている。
 - 森ノ宮医療大学は2026年9月19日（土）・20日（日）であれば使用可能との回答を得ている。

(4) 学校運営改善等助成事業について

- ・研究分野の希望調査の実施結果について、伊藤担当理事から、以下の説明がなされた。

調査対象者：会員校の専任教員

実施期間：令和6年9月17日～10月11日

回答件数：108件

結果：

- ・解決すべき課題があると思う分野（複数選択）については、学生モチベーション（62件）や学生募集（45件）、教員の教育力（35件）、実技教育（32件）、臨床実習（32件）、教科書・教材（29件）、国家試験対策（28件）、遠隔授業（22件）、学生の評価（18件）であった。
- ・柔道整復師養成教育において直面する具体的な課題（自由記述）として学生の学力低下、モチベーションに関するものが多かった。また学生募集についての課題、入学者の質の低下や退学率の増加、モチベーションの維持、教育方法の見直し等も多く挙げられていた。
- ・柔道整復師養成教育において中長期的に解決すべき課題（自由記述）として学力向上、学生募集、モチベーション維持、教育の質向上、臨床実習の充実が重要な課題として挙げられた。
 - 学生募集や退学率・休学率、国家試験合格率が大きな課題である。
- ・柔道整復師養成教育に関して取り上げてほしいと思う課題（自由記述）について、学生の学力低下やモチベーション維持・向上の方法、人とのコミュニケーションや距離感の取り方、専門学校教育における基礎学力の低下と対策、現場に必要な知識技術と学校教育の乖離、教育カリキュラムと卒後の実務内容の乖離などが挙げられる。
 - 多岐にわたる課題が挙げられ、教育内容の充実や現場との整合性を図る必要性が強調されている。

今後の学校運営改善等助成事業について

- ・研究分野については希望調査で挙げた課題を解決するような研究分野を募集する。
 - 成功事例等を発表いただきたい。
 - 研究助成として教員研修会の際に主会場で発表する時間を作る流れを進めていく。

〔一般募集：研究分野〕

1. 柔道整復師の教育に関する分野
2. 養成学校の学生の動向に関する分野
3. 養成学校の学生募集に関する分野

〔特別重点募集：研究分野〕

4. 学科長のマネージメント（学生のモチベーション関連）に関する分野
5. 学科長の役割と学生募集に関する分野

<質疑応答>

- ・この研究分野について、いつから実施予定か。
 - 令和7年度にこの分野で研究助成を実施。令和8年度の研修会（大阪）で発表する。

- (5) その他
特になし。

次回部会の開催日時について2月13日（木）14時と確認し閉会した。

令和6年度 第6回教育支援委員会 専科教員認定講習部会 議事録

日 時 令和6年10月16日（水）13：00～14：30
会 場 （公社）全国柔道整復学校協会 会議室
出席者 5名

議 題

- (1) 修了試験の正答率・識別係数でのチェックならびに合否判定について
- (2) 講習会アンケート集計作業担当者の選定
- (3) 教育実習の期間設定に関する件
- (4) その他

配布資料

- (1) 大阪会場の修了試験出題問題と修了試験採点結果に関する資料
付．修了試験解答用紙整理表と報告書
※上記の資料は会議終了とともに回収した。

会議内容

大阪会場において、立会人と試験総括者で、マークシート解答用紙を機械採点し、成績順、各問題正答率・識別指数などの資料を作成していただいた。

- (1) 大阪会場の修了試験合否判定について

- 1) 採点結果について部会長からの報告

本日、午後1時00分から採点資料を精査し確認した。出題数100問、1問につき1点で採点した。最高92点、最低61点、平均88.4点、60点以上の合格者25名で、0名の不合格者であった。また、正答率が30%未満の問題を精査し、正答の異なる問題を確認したが、最低点者への影響は±1点であったため、61点のままであり合否に影響はなかった。

- 2) 修了試験合否判定について

採点結果資料を関口副会長から谷口会長に電話連絡にてご確認いただき、以下の件で了解を得た。

- ・大阪会場：受験者25名（全員出席）、修了試験の点数6割以上の基準を全員が満たしていた。
- ・現場実習の計画書と評価表は全員提出されている。

・全ての受講者が規定の出席を満たしている。

以上により、東京会場を受講した25名の合格を確認し、10月16日現在で8名が皆勤賞に該当することを確認した。

(2) 講習会アンケート集計作業担当者の選定

下記の内容を理事会に諮り、次回の11月11日（火）午後2時00分～第7回専科教員認定講習部会で審議する。

- ・本年度のアンケート方式で次年度も実施する。
- ・アンケートの質問項目は内容を精査する。
- ・東京会場ではアンケートの回収率が悪かったため、講義修了の出欠確認を兼ねてアンケートを実施する。
- ・集計作業担当者は副理事に依頼、もしくは次年度の担当校から選定する。

(3) 教育実習の期間設定に関する件

下記の内容を理事会に諮り、次回の11月11日（火）午後2時00分～第7回専科教員認定講習部会で審議する。

- ・東京会場での実習期間が短かったため、従来の実技実習を行えない事例があったので、期間を幅広く実習期間を設ける。
- ・修了試験後の実習も可能として、教育実習に受講内容を反映したものとする。
- ・上記の項目を組み込んだ場合には、閉講式を10月下旬に延期する必要がある。

(4) その他

今後は受講試験の結果が芳しくなくても受講を認めるケースも起こりえるため、修了試験の判定材料に、受講生各個人の学習内容を受講試験と修了試験の結果を比較することで、教育効果を抽出し、修了試験の判定材料にしてはどうか。

以 上

令和6年度 第7回教育支援委員会 専科教員認定講習部会 議事録

日 時 令和6年11月11日（月）14：00～15：30
会 場 （公社）全国柔道整復学校協会 会議室
出席者 4名

議 題

- (1) 次年度の各会場の主幹校・協力校の選定
- (2) 講習会のアンケート集計作業担当者の選定
- (3) 教育実習の期間設定に関する件
- (4) 「受講対象B」の対応について
- (5) 経費について
- (6) その他

配布資料

- (1) 専科教員講習会主幹校・協力校の担当順一覧
- (2) 専科教員認定講習会アンケート内容一覧（1～3）
- (3) 「受講対象B」の受講者への対応について書類一式
- (4) 専科教員認定講習会の経理について
- (5) 令和7年度専科教員認定講習会実施スケジュール（予定）

会議内容

担当理事の挨拶のあと、部会長の司会進行で議題の検討を開始した。

- (1) 次年度の各会場の主幹校・協力校の選定

東日本会場

東京メディカルスポーツ専門学校（主幹）

東京医療福祉専門学校（協力）

東京呉竹医療専門学校（協力）

西日本会場

明治東洋医学院専門学校（主幹）

関西医療学園専門学校（協力）

森ノ宮医療学園専門学校（協力）

上記で実施することが決定した。

事務局より東日本会場の打合せを案内し、12月末までには事務局送付のフォーマットに記入する形式で各会場毎に、実施の詳細を決定することとした。

(2) 講習会のアンケート集計作業担当者の選定

次年度より講習会アンケート1に関しては、講義終了後のアンケートの回答をもって出席を認めることで運用することとした。また、アンケートの集計作業は次回の打合せの際に担当校から選出することとした。

(3) 教育実習の期間設定に関する件

本年度の教育実習において実施期間の設定が短いため、十分な実習が行われていない懸念が報告された。次年度に向けた対応として、9月末までを実習期間として10月初旬に修了試験を実施し、追再試を経て、認定実技審査始まる11月には持ち越さないように、10月下旬までに閉講式を終えることでスケジューリングすることを確認した。

(4) 「受講対象B」の対応について

修了試験合格証を閉講式の日付で交付することで対応することとした。また証書は修了証との差別化を図るために華美にしないこととした。

(5) 専科教員認定講習会の経理について

内閣府からの指摘があり、各会場毎の会計経理について改善したことを示す必要があり、事務局長からその取扱いについては理事会に諮ることとなった。

(6) その他

広報委員会より日本柔道整復師会会報に専科教員認定講習会のPR広告を、見開き1ページで載せることになったため、素材となる実習風景の写真や講習会の日程などを、12月中旬を目途に提案することとした。

次回の部会は1月14日（火）の13：00～（公社）柔道整復学校協会会議室で開催予定とした。

令和6年度 第3回広報・調査委員会 議事録

日 時 令和6年10月15日（火）14：00～16：00
会 場 ZOOMによるオンライン併用会議
出席者 8名

議 題

- (1) 前年度及び前回委員会議事録の確認
- (2) 広報業務について
- (3) 調査業務について
- (4) その他

配布資料

1. 令和5年度第3回委員会議事録及び前回の議事録 資料1
2. 柔道整復学校協会会報誌掲載順リスト240401更新 資料2
3. 会報誌第73号裏表紙用専科教員認定講習会ポスター 資料3
4. 教員紹介リレー前号掲載内容 資料4
5. 会報誌第73号目次案 資料5
6. 卒業生のキャリア ホームページPDF掲載見本 資料6
7. 令和6年度広報・調査委員会事業計画書 資料7
8. 令和6年度第4回委員会開催計画書案 資料8

会議内容

冒頭、大麻担当理事から挨拶及び各委員から各校の近況の報告を行った。

- (1) 前年度及び前回委員会議事録の確認
資料1を参照し、令和5年度第3回委員会の議事録及び前回の議事録を確認した。
- (2) 広報業務について
会報誌第73号（令和7年1月発行予定）について
① 資料2を参照し、「わが街の見どころ聞きどころ」担当校の森ノ宮医療学園専門学校へ依頼することを確認した。編集後記は、徳田委員が担当する。原稿の提出締切りは、12月中旬とする。

- ② 資料3を参照し、裏表紙用の専科教員認定講習会の募集案内を確認した。表紙色に合わせてピンク色に変更する。掲載内容は、令和7年度開催要項（予定）とする。
- ③ 資料4を参照し、前号の教員紹介リレーの掲載内容及び会報誌第73号の執筆者（四国医療専門学校 四宮英雄先生）について確認した。
- ④ 資料5を参照し、次号の目次案を確認した。会長年頭挨拶、令和6年度専科教員認定講習会報告、第66回教員研修会報告を掲載予定。
大麻担当理事から、事務局長の就任挨拶の掲載について確認があり、事務局長へ執筆を依頼することとなった。

卒業生のキャリア（ホームページ掲載内容）の新規掲載について

令和6年10月時点における新規加盟校が無い場合、掲載の予定はなし。

教員紹介リレーの執筆者について

佐藤委員から、会報誌第74号（令和7年4月発行予定）までの執筆者が決定していると報告があった。

また、佐藤委員から、今後の執筆者の選定について質問があり、執筆者の選定については特に基準を設けず、担当の佐藤委員に一任することを確認した。

学校協会ホームページについて

【卒業生のキャリア掲載内容の更新について】

大麻担当理事から、卒業生のキャリア掲載内容の更新について経過報告があり、会長、副会長、大麻担当理事で継続して検討する。

【教員研修会のページについて】

大麻担当理事から、教員研修会のページへ容易にアクセスできるように、トップページに教員研修会のページへ遷移するバナーを設けると報告があった。

教員研修会のバナーの設置については、廣木委員長が対応する。

【ホームページの閲覧状況の確認について】

大麻担当理事から、ホームページのアクセス数等の閲覧状況の確認方法について質問があった。

廣木委員長から、閲覧状況の確認方法は分からないと回答があり、教員研修会のバナーを設置する作業の際に、ホームページの管理業者へ確認することとなった。

専科教員認定講習会のPR広告について

大麻担当理事から、今年度も継続して専科教員認定講習会（以下、「認定講習会」という。）のPR広告を鍼灸柔整新聞に掲載すると報告があり、今後の理事会で掲載について諮る予定である。

廣木委員長から、鍼灸柔整新聞の掲載日程の確認があり、令和7年2月10日、令和7年3月10日を予定している。

佐藤委員から、日本柔道整復師会が会員に送付する郵送物にPR広告を同封してみてもどうかと意見があった。

大麻担当理事から、PR広告を同封することで準備したいと回答があり、同封の可否について日本柔道整復師会に照会すると回答があった。

徳田委員から、広範囲にPR活動を行うことを考えると、学生にPR広告を配布して在学時から認定講習会を周知することも必要ではないかと意見があった。

また、宮崎委員から、各学校で開催している同窓会や卒後研修会等の行事において、PR広告を配布することも良いのではないかと意見があった。

大麻担当理事から、認定講習会の認知度の向上のために、PR広告の配布について協力依頼を送付することの提案があり、協力依頼の送付対象について検討することとなった。

送付対象の検討及び一覧表の作成は、徳田委員、宮崎委員で担当し、11月中に大麻担当理事へ報告することとなった。

(3) 調査業務について

令和6年度入学者の構成に関するアンケート調査について

大麻担当理事から、調査結果については、9月理事会で報告済みであり、学校協会ホームページにも掲載済みと報告があった。

(4) その他

会長の新年挨拶動画のホームページ掲載について

学校協会の年賀状の廃止に代わり、会長の新年の挨拶動画をホームページに掲載する。

挨拶動画の掲載については、大麻担当理事から改めて会長へ確認を行い、動画撮影を依頼する。

大麻担当理事から、撮影方法及び撮影場所等については継続して検討することが示された。

挨拶動画の内容は、会報誌第73号の会長年頭挨拶の頁に掲載する予定である。

新規トピックスのホームページ掲載時の周知について

大麻担当理事から、柔道大会の案内及び教員研修会の案内等をホームページに掲載した際に、新規トピックスの掲載について周知が必要ではないかと提案があった。

事務局からのメールマガジン等の配信方法が考えられるが、継続して検討することが示された。

次回委員会について

令和6年度第4回広報・調査委員会は、令和7年1月21日（火）14時から16時にZOOMによるオンライン会議にて開催する。

議題は、会報誌第74号について、卒業生のキャリア（ホームページ掲載内容）について、入学者の構成に関するアンケート調査について、他を予定している。



「めんそ〜れ！琉球王国の古都・浦添市へ！」

専門学校沖縄統合医療学院
柔道整復学科 川満 亘

専門学校沖縄統合医療学院は沖縄県浦添市に2007年に開校し今年で17年目を迎えました。浦添市は沖縄本島の南部地域と中部地域の境目にあり、那覇市、沖縄市、うるま市に次いで沖縄県内で4番目に人口が多い市町村となっております。那覇市に隣接しているため、沖縄都市モノレール延線による駅の開設や沖縄西海岸道路の開通などインフラ整備が近年目覚ましく進んでおり、さらなる浦添市の発展が期待されます。

浦添市は琉球王朝発祥の地でもあり、「津々浦々を襲う（諸国を支配する）」という意味で、それが「ウラオソイ」、さらに転じて「ウラシイ」となり、現在のような「浦添」の文字が与えられました。また、浦添は「てだこの街」と呼ばれることもあり、行事などにもその名称をつけることが多くあります。その由来は、かつて浦添城（現在は浦添城址）を中心に琉球王国の首都として栄えた時代の王「英祖王」の父が太陽であったという伝説があり、それにちなんで沖縄の方言で太陽を意味する「ていだ」と、その太陽の子供を意味する「こ」を合わせ「てだこ」と呼ばれるようになったそうです。

そんな浦添市のおすすめスポットは、本校からも近い総合公園「浦添大公園」です。

17.18haの広大な敷地は、「ふれあい広場ゾーン」「憩いの広場ゾーン」「歴史学習ゾーン」と3つのエリアに区画されており、特に歴史学習ゾーンには先述した英祖王の墓「浦添ようどれ」や壮大な歴史を物語る「浦添城跡」があり、それぞれを訪れる前に「浦添グスク・ようどれ館」に立ち寄れば、さらにディープな琉球の歴史に触れることができます。

また、標高約130mの高台に位置しているため、東シナ海や浦添市内を一望できるほか、首里やかつて貿易港があった「牧港（まきみなと）」も見ることができます。

さらに浦添大公園展望台には、初代沖縄そば王にも輝いた「沖縄そば専門店いしぐふー浦添大公園店」もあり、絶景にも負けない美味しい沖縄そばが堪能できること間違いなし。

毎年夏には「浦添てだこまつり」と題し、この浦添大公園を会場に県内出身アーティストによる豪華な音楽フェスなどで大盛り上がりしており、本校屋上からも締めの花火を鑑賞することができます。

フリーマーケットやキッチンカーの定期開催もあり、地域住民をはじめ県民にレクリエーションや憩いの場として親しまれています「浦添大公園」ですので、全国柔道整復学校協会会員の皆様、沖縄に来られた際には寄ってみてはいかがでしょうか？

その際には、本校にもお立ち寄りいただけますと幸いです。



「浦添城跡」



「浦添大公園展望台」



「沖縄そば専門店いしぐふー浦添大公園店」



四国医療専門学校
四宮 英雄

(香川県高松市出身)



この度、柔道整復学校協会 広報・調査委員会のご紹介により依頼を受けまして、原稿を書く機会をいただきありがとうございます。私は平成15年より四国医療専門学校で教員として勤務させていただき、今年で21年目になります。

～ 柔道整復師へのきっかけ ～

私が柔道整復師を目指したきっかけは、父親の存在があります。父親は柔道整復師として接骨院を開業して50年以上になります。幼い時から働きに出かける父親の姿を見ており、学生時代には私の捻挫を直してくれた時がありました。「人から感謝される仕事をしていきたい」という思いがあり、この道を選びました。どの専門学校を受験するかいう時に、日中は好きなことをして過ごしたいと思い、夜間部だけの帝京医学技術専門学校を選択して入学させて頂きました。

～ 専門学校入学 ～

入学すると様々な医療資格を持った方や、様々な年代の方が多くいて、自分の力の無さを感じた時期もありましたが、いろいろな人の助けを借りて楽しく3年間学ぶことができました。また入学と同時に東京ドームのグランドキーパーのアルバイトを始めました。最初の仕事はあの広い東京ドームの人工芝をタワシで擦るという仕事でした。理由はアルバイト希望者が多いので、振るい落とすために行っていたそうです。半年経つと信用を得ることができて、様々な仕事を任していただけるようになり、一生の思い出とさせて頂きました。

そしてこのアルバイトで学ばせていただいたことがありました。それは仕事を行うときは最後（ゴール）から逆算して考えて行うことです。物事を始める前には自然と最初から初めてしまうものです。そうすると期限に間に合わないことがあります。ですから仕事は必ず最後から逆算して行うことと上司から教わりました。この教えは今の仕事の中心の考

え方です。今でもその時の上司の方とは年賀状のやり取りがあり、退職された方からも退職の挨拶が届き、お返事をした思い出がありました。



東京ドームのアルバイトの仲間たち（本人後列右から4人目）

～ 開業 or 新たな進路について ～

専門学校卒業後、しばらく実家で働き、開業をしました。もちろん十分な自信があったわけではありませんでした。勢いで開業をしたような感じでした。そこで様々な疾患の処置を自分なりに考えて行い、勉強しました。この時の開業の経験が今の自分を支えています。いろいろな失敗もしましたが、学びも多く、今でも授業の中で当時の経験談を話して授業を行なっています。

数年後、地元で柔道整復の養成学校ができたのを知り、お世話になっている先生から「教員になってみないか」とお声をかけて頂きました。実は学生時代の恩師のように学校の教員の仕事と接骨院の仕事ができればなあと思っていました。色々考えましたが、専任教員になることを選択しました。当時の専科教員認定講習会でもいろいろな先生方に出会うことができ感謝しております。今でも仕事で関わりもあり、プライベートでも連絡を取り合っています。これからも親しくしていきたいと考えております。

～ OSCE教育について ～

平成15年に四国医療専門学校に入職させて頂きました。入職後、いろいろな仕事をさせて頂きましたが、その中の1つにOSCE教育があります。OSCE作業部会の一員として柔道整復師養成施設のOSCE教育についてのガイドラインの作成に参加させて頂きました。当時、四国医療専門学校ではまだOSCE教育は実施してなく、柔道整復師養成施設校にも、まだOSCE教育は普及していませんでしたので、参考になる外傷例としてのモデル（模擬患者）の実例に見当が付きませんでした。特に重要視したのは外傷の有無の確認でした。OSCE教育の準備の中で、外傷の模擬患者を準備することに時間を要しました。そこで参考にしたのは救急災害のOSCE教育でした。そこで使われている外傷の模擬患者の設定を参考にして、柔道整復師の業務範囲の疾患に見立ててOSCE教育を行いました。そして平

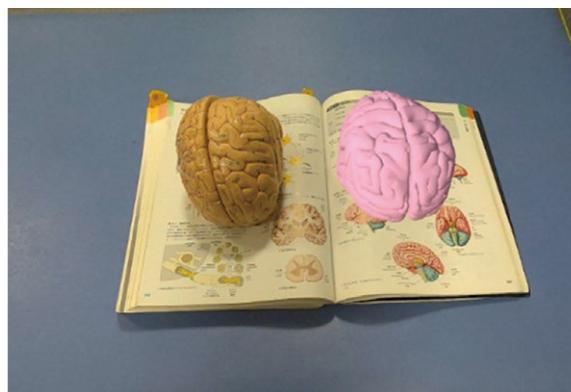
成23年度、24年度の全国教員研修会で「柔道整復養成学校の臨床実習におけるOSCE教育の実例について」としてパネラーとして参加し、パネルディスカッションを行い、本校のOSCE教育の導入例について報告を行いました。現在でも本校ではOSCE教育を行っております。



柔道整復師養成施設のOSCE教育についてのガイドライン

～ VR教育について ～

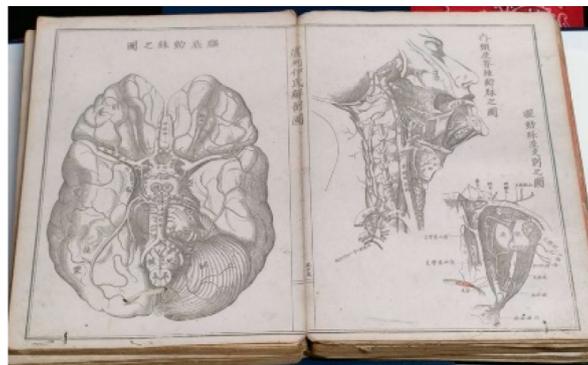
現在、私が取り組んでいるのは、VR教育です。令和3年より柔道整復学校協会 研究助成事業として解剖学分野におけるVR教育の導入を行いました。導入の目的は能動的な学習教育の実践です。近年、解剖学の勉強の中で臓器の形や位置関係がイメージつきにくい学生が多くなっています。そういった学生の苦手なイメージを払拭したいと考え導入しました。現在、私は放送大学大学院 文化科学研究科 修士課程に在籍しています。指導准教授の川原靖弘先生のご指導のもと、1年生を対象としたVR研究を行っております。アンケート結果においては学生達からは好評を得ております。これまでも教員研修会にて発表を行っており、今後も学生の知識向上の一端を担うことができるよう研究を続けていきます。



VR教育（大脳について）

～ エピソードについて ～

今回の原稿のご依頼を頂いた際に、思い出したエピソードがあります。ある時、接骨院の棚から古い解剖学の書物が出てきました。これは「虞列伊氏解剖訓蒙圖」という解剖書です。祖父は昭和8年に免許皆伝して鍼灸マッサージ師として業を行っていました。その時の勉強の際に使っていたものです。現在の解剖学の内容と遜色ありません。しばらくその精巧性に見惚れてしまいました。それを見て感じたことはどんなに古くても良いものは将来にも通用するということでした。つまり学生や有資格者の興味を持つものを形にして残していけば、今後の柔道整復教育及び業に可能性があると感じました。これからは自分がこれまで学んできたことなどを何かの形にしていくことを心がけていきたいと思います。



虞列伊氏解剖訓蒙圖

～ 次回は… ～

次回は九州医療スポーツ専門学校の桑野幸仁先生にバトンをお繋ぎします。

私と桑野先生とは現在柔道整復学校協会の教育研修等部会で仕事をご一緒させていただいております。昨年度の全国教員研修会では主管校としてご尽力されました。桑野先生は教育研修等部会の副部長として活躍されており、様々な仕事を的確にこなされるマルチな先生です。

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

正会員校要覧

令和6年4月1日現在

都道府県		学 校 名	所 在 地	TEL FAX
北海道 1校	1	公益社団法人 北海道柔道整復師会 附属北海道柔道整復専門学校	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西18-1-15	011-642-0731 011-642-8455
岩手県 1校	2	学校法人 龍澤学園 MCL盛岡医療大学校	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通3-3-4	019-652-1189 019-652-1198
宮城県 2校	3	学校法人 東北柔専 仙台接骨医療専門学校	〒983-0005 宮城県仙台市宮城野区福室3-4-16	022-258-6222 022-259-7511
	4	学校法人 赤門宏志学院 仙台赤門医療専門学校	〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻青葉33-1	022-222-8349 022-222-3797
福島県 1校	5	学校法人 平成医療学園 福島医療専門学校	〒963-8026 福島県郡山市並木3-2-23	024-933-0808 024-933-7887
群馬県 1校	6	学校法人 国際中央学園 中央スポーツ医療専門学校	〒371-0843 群馬県前橋市新前橋町21-16	027-253-1205 027-253-1230
埼玉県 2校	7	学校法人 大川学園 大川学園医療福祉専門学校	〒357-0016 埼玉県飯能市下加治345	042-974-8880 042-974-8884
	8	学校法人 呉竹学園 大宮呉竹医療専門学校	〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-185-1	048-658-0001 048-658-0005
東京都 11校	9	学校法人 花田学園 日本柔道整復専門学校	〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町20-1	03-3461-4740 03-3461-4733
	10	学校法人 呉竹学園 東京呉竹医療専門学校	〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町16-12	03-3341-4043 03-3358-3976
	11	学校法人 敬心学園 日本医学柔整鍼灸専門学校	〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-18-18	03-3208-7741 03-3208-6488
	12	学校法人 エイジェック学園 スポーツ健康医療専門学校	〒130-0026 東京都墨田区両国4-27-4	03-3846-5151 03-3846-5152
	13	学校法人 滋慶学園 東京メディカル・スポーツ専門学校	〒134-0088 東京都江戸川区西葛西3-1-16	03-5605-2930 03-5605-2932
	14	学校法人 片柳学園 日本工学院八王子専門学校	〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404-1	042-637-3111 042-637-3112
	15	学校法人 創志学園 日本健康医療専門学校	〒111-0053 東京都台東区浅草橋3-31-5	03-5835-1456 03-5835-1457
	16	学校法人 都築科学学園 関東柔道整復専門学校	〒190-0012 東京都立川市曙町1-13-13	042-529-6660 042-529-6665
	17	学校法人 小倉学園 新宿医療専門学校	〒160-0017 東京都新宿区左門町5番地	03-3352-6811 03-3352-6816
	18	学校法人 西田学園 アルファ医療福祉専門学校	〒194-0022 東京都町田市森野1-7-8	042-729-1026 042-721-8411
	19	学校法人 常陽学園 東京医療福祉専門学校	〒104-0032 東京都中央区八丁堀1-11-11	03-3551-5751 03-3551-5752
神奈川県 1校	20	学校法人 呉竹学園 横浜呉竹医療専門学校	〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜2-7-24	045-471-3731 045-471-3732
静岡県 1校	21	学校法人 森島学園 専門学校浜松医療学院	〒434-0038 静岡県浜松市浜名区貴布祢232-3	053-585-1333 053-585-1661

都道府県		学 校 名	所 在 地	TEL FAX
愛知県 3校	22	学校法人 米田学園 米田柔整専門学校	〒451-0053 愛知県名古屋市区枇杷島2-3-13	052-562-1210 052-563-6495
	23	学校法人 滋慶コミュニケーションアート 名古屋医健スポーツ専門学校	〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄3-20-3	052-238-3463 052-238-3464
	24	学校法人 葛谷学園 中和医療専門学校	〒492-8251 愛知県稲沢市東緑町1-1-81	0587-23-5235 0587-23-5237
京都府 1校	25	学校法人 滋慶コミュニケーションアート 京都医健専門学校	〒604-8203 京都府京都市中京区衣棚町51-2	075-257-6507 075-257-6488
大阪府 7校	26	学校法人 関西医療学園 関西医療学園専門学校	〒558-0011 大阪府大阪市住吉区荻田6-18-13	06-6699-2222 06-6609-2118
	27	学校法人 明治東洋医学院 明治東洋医学院専門学校	〒564-0034 大阪府吹田市西御旅町7-53	06-6381-3811 06-6381-3800
	28	学校法人 平成医療学園 平成医療学園専門学校	〒531-0071 大阪府大阪市北区中津6-10-15	06-6454-1500 06-6454-1550
	29	学校法人 森ノ宮医療学園 森ノ宮医療学園専門学校	〒537-0022 大阪府大阪市東成区中本4-1-8	06-6976-6889 06-6973-3133
	30	学校法人 履正社 履正社国際医療スポーツ専門学校	〒532-0023 大阪府大阪市淀川区十三東1-21-23	06-6305-6592 06-6305-1692
	31	学校法人 近畿医療学園 近畿医療専門学校	〒530-0047 大阪府大阪市北区西天満5-3-10	06-6360-3003 06-6360-3022
	32	学校法人 大阪滋慶学園 東洋医療専門学校	〒532-0004 大阪府大阪市淀川区西宮原1-5-35	06-6398-2255 06-6398-2225
兵庫県 1校	33	学校法人 神戸創志学園 関西健康科学専門学校	〒659-0065 兵庫県芦屋市公光町1-18	0797-22-7221 0797-22-9333
岡山県 1校	34	学校法人 朝日医療学園 朝日医療大学校	〒700-0026 岡山県岡山市北区奉還町2-7-1	086-255-2000 086-255-2010
広島県 1校	35	学校法人 IGL学園 IGL医療福祉専門学校	〒731-3164 広島県広島市安佐南区伴東1-12-18	082-849-5001 082-849-5115
香川県 1校	36	学校法人 大麻学園 四国医療専門学校	〒769-0205 香川県綾歌郡宇多津町浜五番丁62-1	0877-41-2320 0877-41-2322
愛媛県 1校	37	学校法人 河原学園 河原医療福祉専門学校	〒790-0014 愛媛県松山市柳井町3-3-13	089-946-3388 089-946-4555
福岡県 4校	38	学校法人 福岡医療学院 福岡医療専門学校	〒814-0005 福岡県福岡市早良区祖原3-1	092-833-6120 092-833-6516
	39	学校法人 滋慶学園 福岡医健・スポーツ専門学校	〒812-0032 福岡県福岡市博多区石城町7-30	092-262-2119 092-262-8669
	40	学校法人 都築学園 福岡天神医療リハビリ専門学校	〒810-0004 福岡県福岡市中央区渡辺通4-3-7	092-738-7823 092-738-8584
	41	学校法人 国際志学園 九州医療スポーツ専門学校	〒802-0077 福岡県北九州市小倉北区馬借1丁目1-2	093-531-5331 093-531-5332
佐賀県 1校	42	学校法人 九州アカデミー学園 九州医療専門学校	〒841-0027 佐賀県鳥栖市松原町1709-2	0942-81-3131 0942-81-3154
沖縄県 1校	43	学校法人 松正学園 専門学校沖縄総合医療学院	〒901-2132 沖縄県浦添市伊祖4丁目1番-19号	098-875-8377 098-875-8366
合 計			43校	

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

学校理事長・校長・正会員名簿

令和6年4月1日現在

都道府県		学 校 名	理事長	校 長	正会員
北海道	1	公益社団法人 北海道柔道整復師会 附属北海道柔道整復専門学校	高山 訓正	當瀬 規嗣	高山 訓正
岩手県	2	学校法人 龍澤学館 MCL盛岡医療大学校	龍澤 尚孝	鈴木 一幸	松岡 靖
宮城県	3	学校法人 東北柔専 仙台接骨医療専門学校	島谷 剛美	島谷 夕美	島谷 夕美
	4	学校法人 赤門宏志学院 仙台赤門医療専門学校	坂本 正憲	安齋 昌弘	坂本 正憲
福島県	5	学校法人 平成医療学園 福島医療専門学校	岸野 雅方	飯島 正治	岸野 雅方
群馬県	6	学校法人 国際中央学園 中央スポーツ医療専門学校	中島 利郎	星野 寛一	中島 利郎
埼玉県	7	学校法人 大川学園 大川学園医療福祉専門学校	奥村 千秋	平澤 淳	平澤 淳
	8	学校法人 呉竹学園 大宮呉竹医療専門学校	坂本 歩	齊藤 秀樹	八亀俊一郎
東京都	9	学校法人 花田学園 日本柔道整復専門学校	櫻井 康司	櫻井 康司	櫻井 康司
	10	学校法人 呉竹学園 東京呉竹医療専門学校	坂本 歩	村上 哲二	齊藤 秀樹
	11	学校法人 敬心学園 日本医学柔整鍼灸専門学校	小林 光俊	岸本 光正	奥田 久幸
	12	学校法人 エイジェック学園 スポーツ健康医療専門学校	石原 征二	桑原 淳	桑原 淳
	13	学校法人 滋慶学園 東京メディカル・スポーツ専門学校	浮舟 邦彦	関口 正雄	関口 正雄
	14	学校法人 片柳学園 日本工学院八王子専門学校	千葉 茂	山野 大星	千葉 茂
	15	学校法人 創志学園 日本健康医療専門学校	増田 哲也	清宮 克幸	大橋 博
	16	学校法人 都築科学学園 関東柔道整復専門学校	都築 慶子	都築 稔	都築 稔
	17	学校法人 小倉学園 新宿医療専門学校	小倉 基義	小倉 芳裕	永野 修
	18	学校法人 西田学園 アルファ医療福祉専門学校	西田 忠康	瀧 将仁	瀧 将仁
	19	学校法人 常陽学園 東京医療福祉専門学校	濱田 良機	殿村 康一	殿村 康一
神奈川県	20	学校法人 呉竹学園 横浜呉竹医療専門学校	坂本 歩	坂本 歩	村上 哲二
静岡県	21	学校法人 森島学園 専門学校浜松医療学院	森島 康之	鈴木 康仁	鈴木 康仁

都道府県		学 校 名	理事長	校 長	正会員
愛知県 3校	22	学校法人 米田学園 米田柔整専門学校	米田 忠正	山本 啓司	米田 忠正
	23	学校法人 滋慶コミュニケーションアート 名古屋医健スポーツ専門学校	竹本 雅信	木村 一郎	竹本 雅信
	24	学校法人 葛谷学園 中和医療専門学校	楠本 高紀	清水 洋二	清水 洋二
京都府 1校	25	学校法人 滋慶コミュニケーションアート 京都医健専門学校	竹本 雅信	藤田 裕之	竹本 雅信
大阪府 7校	26	学校法人 関西医療学園 関西医療学園専門学校	武田 大輔	武田 大輔	廣岡 聡
	27	学校法人 明治東洋医学院 明治東洋医学院専門学校	谷口 和彦	三澤 圭吾	谷口 和彦
	28	学校法人 平成医療学園 平成医療学園専門学校	岸野 雅方	北野 吉廣	北野 吉廣
	29	学校法人 森ノ宮医療学園 森ノ宮医療学園専門学校	清水 尚道	清水 尚道	清水 尚道
	30	学校法人 履正社 履正社国際医療スポーツ専門学校	釜谷 等	池尾 忠思	田中 雅博
	31	学校法人 近畿医療学園 近畿医療専門学校	小林 英健	清原 伸彦	藤原 光
	32	学校法人 大阪滋慶学園 東洋医療専門学校	浮舟 邦彦	太田 宗夫	古谷 圭司
兵庫県 1校	33	学校法人 神戸創志学園 関西健康科学専門学校	岡田 典世	住田 行志	岡田 典世
岡山県 1校	34	学校法人 朝日医療学園 朝日医療大学校	津島 伸章	草地 清志	津島 伸章
広島県 1校	35	学校法人 IGL学園 IGL医療福祉専門学校	永見 憲吾	本廣 淳範	本廣 淳範
香川県 1校	36	学校法人 大麻学園 四国医療専門学校	大麻 正晴	後藤 修司	大麻 正晴
愛媛県 1校	37	学校法人 河原学園 河原医療福祉専門学校	河原 成紀	石崎 学	水野 晋悟
福岡県 4校	38	学校法人 福岡医療学院 福岡医療専門学校	藤瀬 武	藤瀬 武	藤瀬 武
	39	学校法人 滋慶学園 福岡医健・スポーツ専門学校	浮舟 邦彦	古谷野 潔	古谷野 潔
	40	学校法人 都築学園 福岡天神医療リハビリ専門学校	都築 仁子	大川 照明	大川 照明
	41	学校法人 国際志学園 九州医療スポーツ専門学校	水嶋 章陽	赤木 恭平	水嶋 章陽
佐賀県 1校	42	学校法人 九州アカデミー学園 九州医療専門学校	門司 誠一	井上 勇介	門司 誠一
沖縄県 1校	43	学校法人 松正学園 専門学校沖縄総合医療学院	松浦 幸男	鈴木 信司	鈴木 信司

賛助会員名簿

賛助会員団体名	代表者氏名	住 所	電話番号
株式会社南江堂	代表取締役社長 小立 健 太	〒113-8410 文京区本郷3-42-6	03-3811-7140
医歯薬出版株式会社	代表取締役社長 白石 泰 夫	〒113-8612 文京区本駒込1-7-10	03-5395-7616

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 教育支援委員会教科書部会 名簿

令和5年4月1日より令和7年3月31日まで

令和6年4月1日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	大宮呉竹医療専門学校	校長	齊藤 秀樹
部会長	明治東洋医学院専門学校	校長	三澤 圭吾
副部会長	大宮呉竹医療専門学校	教員	村澤 幸弘
部員	仙台接骨医療専門学校	教頭	佐藤 真希
部員	福島医療専門学校	教務部長	齊藤 慎吾
部員	中央スポーツ医療専門学校	専任教員	岡田 郁子
部員	スポーツ健康医療専門学校	副学科長	淵ノ上真太郎
部員	専門学校浜松医療学院	学科長	錦織 輝礼
部員	米田柔整専門学校	教員	生駒 慎二
部員	朝日医療大学校	学科長	横見瀬ゆかり
部員	河原医療福祉専門学校	教頭	鈴 武利
部員	福岡医健・スポーツ専門学校	専任教員	水元 宏哉
部員	九州医療専門学校	学科長	徳安 琢磨

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 教育支援委員会教員研修等部会 名簿

令和5年4月1日より令和7年3月31日まで

令和6年7月19日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	日本体育大学保健医療学部	教授	伊藤 譲
(副)担当理事	学校法人 国際志学園	理事長	水嶋 章陽
部会長	森ノ宮医療学園専門学校	教員	葉山 直史
副部会長	九州医療スポーツ専門学校	教務部長	桑野 幸仁
部員	日本工学院八王子専門学校	科長	有山 敦士
部員	関東柔道整復専門学校	学科長代理	加藤 稔啓
部員	東洋医療専門学校	副学科長	山田 靖典
部員	四国医療専門学校	専任教員	四宮 英雄
部員	専門学校沖縄統合医療学院	教員	登崎 正行

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 教育支援委員会専科教員認定講習部会 名簿

令和5年4月1日より令和7年3月31日まで

令和6年4月1日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	日本医学柔整鍼灸専門学校	相談役	奥田 久幸
(副)担当理事	日本体育大学保健医療学部	教授	伊藤 譲
部会長	大宮呉竹医療専門学校	臨床教育研究センター マネージャー	川口 央修
副部会長	平成医療学園専門学校	校長	北野 吉廣
部員	日本柔道整復専門学校	教務副部長	山口 竜彦
部員	日本健康医療専門学校	専任教員	新才 博紀
部員	新宿医療専門学校	専任教員	春日 貴之
部員	明治東洋医学院専門学校	専任教員	神内 伸晃
部員	近畿医療専門学校	教務部長	上野 雅洋

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

教育支援委員会柔道整復師国家試験模擬試験部会 名簿

令和5年4月1日より令和7年3月31日まで

令和7年1月17日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	大宮呉竹医療専門学校	校長	齊藤 秀樹
部会長	東京呉竹医療専門学校	学科長	杉山 直人
副部会長	明治東洋医学院専門学校	教務部次長	秋津 知宏

問題作成小委員会（7名）

部員	附属北海道柔道整復専門学校	教務主任	野崎 享
部員	東京メディカル・スポーツ専門学校	学科長	小関 孝男
部員	横浜呉竹医療専門学校	科長	田中 秀和
部員	中和医療専門学校	学科長	太田 康晴
部員	関西医療学園専門学校	学生部長補佐	林 竜也
部員	履正社国際医療スポーツ専門学校	専任教員	桃井 俊明
部員	四国医療専門学校	学科主任	鹿庭 祥平

データ処理小委員会（4名）

部員	大宮呉竹医療専門学校	臨床教育センターマネージャー	川口 央修
部員	東京呉竹医療専門学校	柔道整復科 専任教員	池亀 耕太
部員	明治東洋医学院専門学校	実技主任	神内 伸晃
部員	明治東洋医学院専門学校	学生科長	奥田 香苗

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 広報・調査委員会 委員名簿

令和5年4月1日より令和7年3月31日まで

令和6年4月1日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	四国医療専門学校	理事長	大麻 正晴
委員長	東京呉竹医療専門学校	事務長補佐	廣木 智
副委員長	四国医療専門学校	学科主任	鹿庭 祥平
委員	仙台接骨医療専門学校	教頭	佐藤 真希
委員	仙台赤門医療専門学校	専任教員	亀井 啓
委員	日本医学柔整鍼灸専門学校	専任教員	片橋 るみ
委員	関西医療学園専門学校	次長	徳田 明也
委員	森ノ宮医療学園専門学校	学科長	外林 大輔
委員	関西健康科学専門学校	教員	宮崎 香織

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 柔道委員会 委員名簿

令和5年4月1日より令和7年3月31日まで

令和6年4月1日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	関西医療学園専門学校	副校長	廣岡 聡
委員長	東京呉竹医療専門学校	科長補佐	早川 幸秀
副委員長	福岡医健・スポーツ専門学校	副校長	湊谷 知幹
委員	日本柔道整復専門学校	教員	赤羽 泰彦
委員	日本医学柔整鍼灸専門学校	教員	長坂 愛
委員	名古屋医健スポーツ専門学校	副校長	米女 博司
委員	I G L 医療福祉専門学校	教員	埜 義徳

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 組織運営委員会 委員名簿

令和5年4月1日より令和7年3月31日まで

令和6年4月1日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	履正社国際医療スポーツ専門学校	副校長	田中 雅博
委員長	履正社国際医療スポーツ専門学校	学科長	辻井 宏昭
副委員長	東京医療福祉専門学校	学科長	伊藤 浩二
委員	MCL盛岡医療大学校	副主任	佐々木智章
委員	大川学園医療福祉専門学校	学科長	霞 孝行
委員	アルファ医療福祉専門学校	学科長	鈴木 忠慶
委員	明治東洋医学院専門学校	事務局長	藤井 義巳
委員	福岡医療専門学校	副校長	藤瀬 正
委員	福岡天神医療リハビリ専門学校	学科長	小川 勝

❀❀❀❀❀ 編集後記 ❀❀❀❀❀

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

新年を迎え、令和7年に最も注目されるイベントの1つといえば、大阪・関西万国博覧会（開催期間：2025年4月13日（日）～10月13日（月）184日間・会場：大阪の夢洲）が開催されます。

私が思う万国博覧会とは、「未来へのターニングポイント」であると考えています。

そして、この度の万博博覧会のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」で、サブテーマが「いのちを救う、いのちの力をあたえる、いのちをつなぐ」とされており、医療・健康・介護などに関わる分野にも注力されています。

その1つが「大阪ヘルスケアパビリオン」であります。

開催期間中には、日本各地、さらには世界各国の方々が関西地方・大阪に足を運んでこられることと思います。大阪では、万国博覧会の内外で、既に医療・健康・介護・医療器械などの医療の未来を伺えるイベントの開催も予定しているといわれています。

この度の大阪・関西万国博覧会が、我々人類や全ての生き物にとって、「いのち」・「健康」に繋がる医療分野の未来、そして柔道整復の分野においても、柔道整復業界の未来に繋がるターニングポイントとなり得る祭典になればと願っております。

一方、((公社)全国柔道整復学校協会の)広報・調査委員会の1つの取り組みとしては、(公社)全国柔道整復学校協会の活動、さらには柔道整復分野(業界)全体に係る情報などを取りまとめて、全国広域に発信を行っています。

特に年4回発行される会報誌においては、柔道整復に関する魅力を最大限に伝えるために、幅広い記事内容を目指した情報誌として発行しています。

これまでの歴史ある会報誌が新しい企画を含む会報誌にバージョンアップしていくことを一委員として実感しています。これから先も魅力ある情報を発信する会報誌として進化し続けることと思います。

最後に末筆ではございますが、新年を迎え、本年が柔道整復に携わる各学校の教職員・関係者の皆さま方にとって素晴らしい年となりますことを心よりお祈り申し上げます。

広報・調査委員会 委員
関西医療学園専門学校 徳田 明也

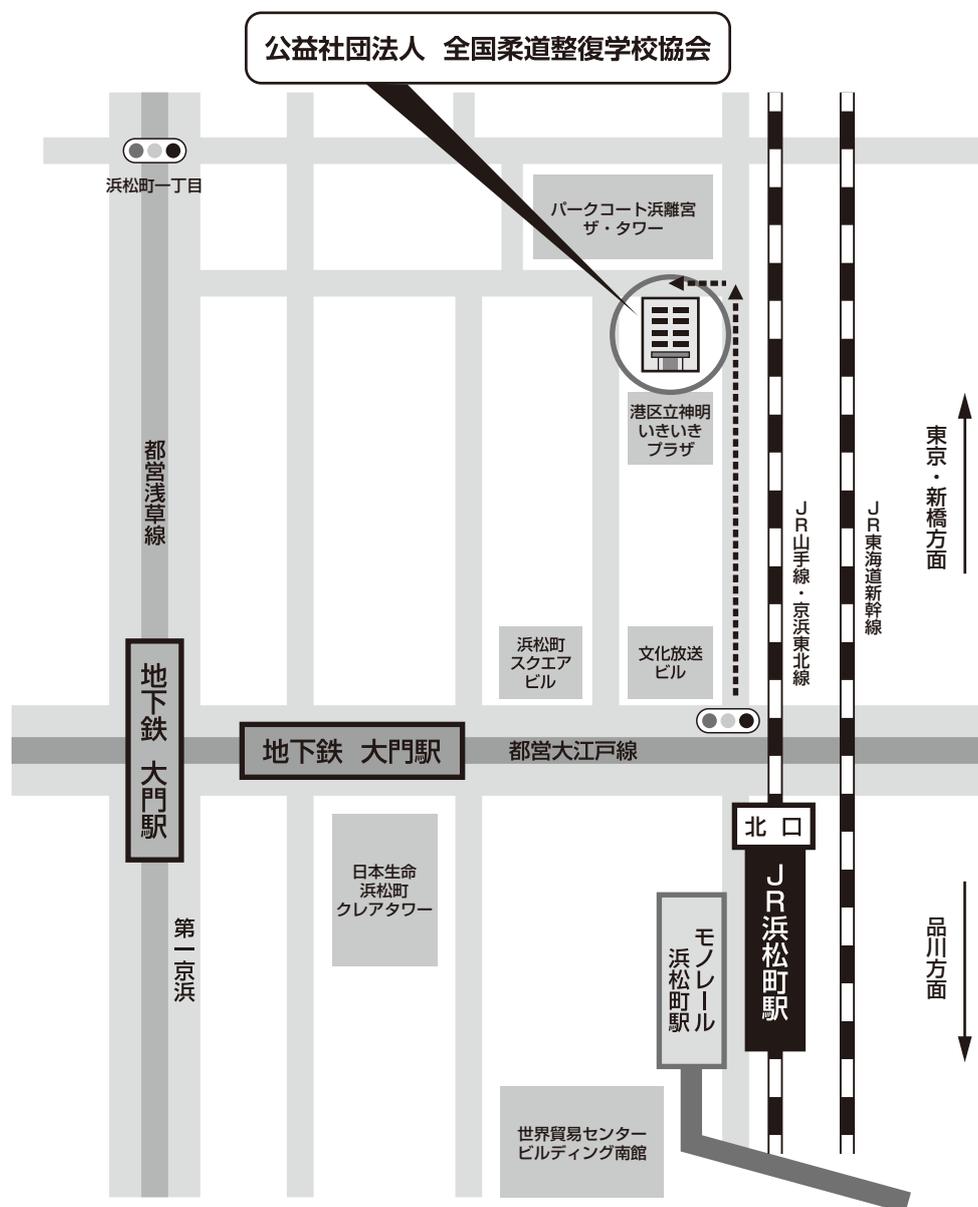
公益社団法人 全国柔道整復学校協会広報誌 **会 報** 第73号

令和7年1月 発行

発行所	公益社団法人 全国柔道整復学校協会
発行人	谷口和彦
	〒105-0013 東京都港区浜松町1丁目6-2 丸神ビル1階
電話	03-5405-1690
FAX	03-5405-3790
ホームページ	https://www.judo-seifuku.or.jp/

印刷所 大和総合印刷株式会社

案内図



アクセス

- ・JR「浜松町駅」北口より徒歩5分
- ・都営地下鉄浅草線「大門駅」B1より徒歩5分
- ・都営地下鉄大江戸線「大門駅」B1より徒歩5分

所在地

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

〒105-0013

東京都港区浜松町1丁目6-2丸神ビル1F

TEL：(03) 5405-1690 FAX：(03) 5405-3790

専科教員認定講習会

公益社団法人
全国柔道整復学校協会



公益社団法人 全国柔道整復学校協会は、
専科教員資格取得のための講習会を
開催しています。

教員資格を取得するためには、
専科教員認定講習会の受講が必要です

2025年度

受講資格	4年以上の実務経験を有する方
受講試験	2025年5月11日(日) (予定)
申込期間	2025年3月1日(土)～3月31日(月)
講習日程	2025年6月～10月の(土)・(日)・(祝)
講習会場	東京会場・大阪会場 (予定)

■詳細は2025年3月に学校協会ホームページにて公開の予定です



www.judo-seifuku.or.jp

THE JAPAN ASSOCIATION OF JUDO-SEIFUKU COLLEGES

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

〒105-0013 東京都港区浜松町1丁目6-2 丸神ビル1階
TEL.03-5405-1690 FAX.03-5405-3790

